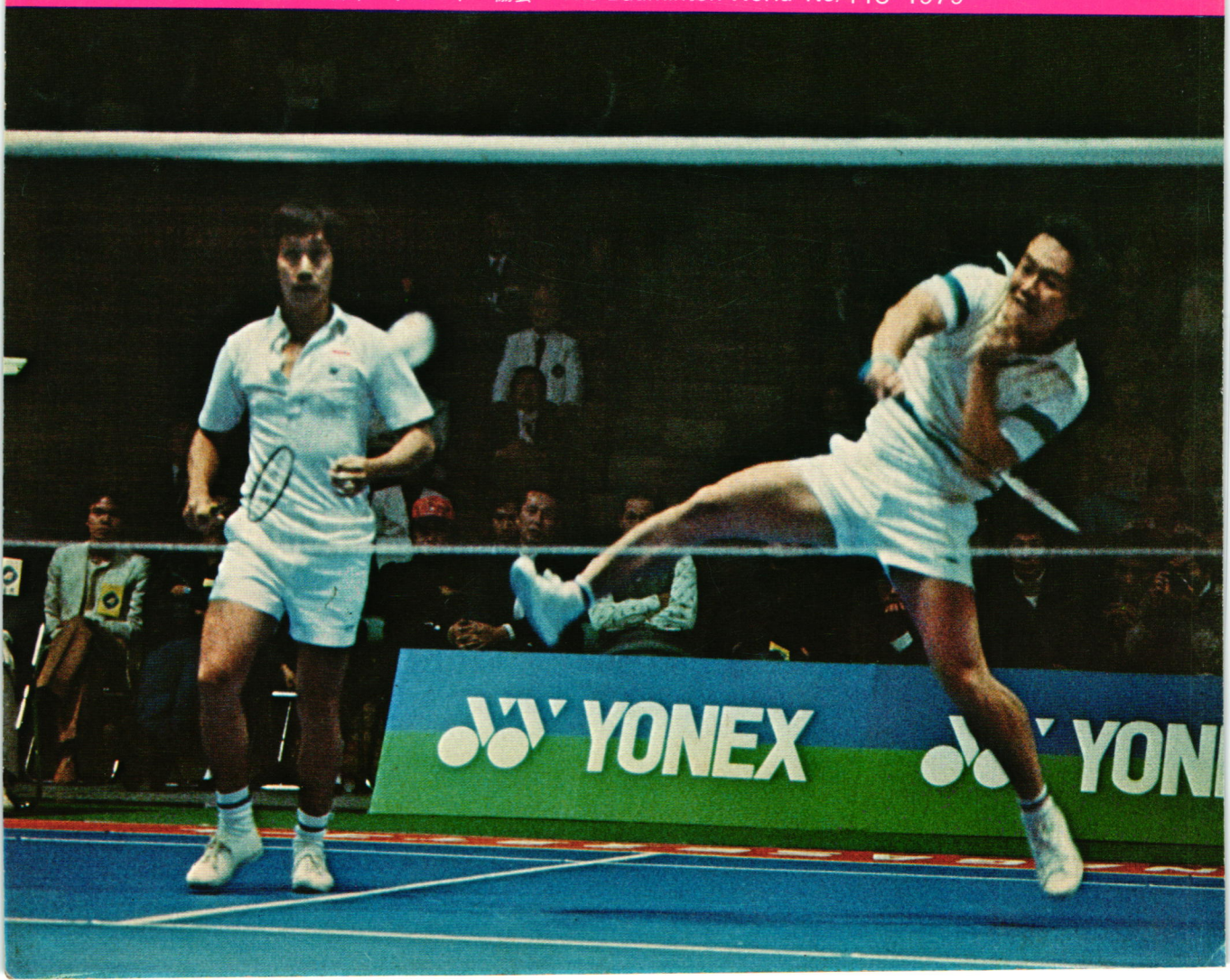
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年3月15日発行（毎月1回15日発行通巻第113号）

バドミントン界

日本バドミントン協会　The Badminton World No. 113 1979

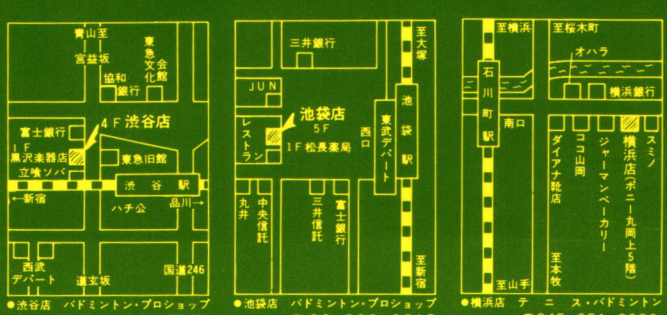


あなたは未来派(カーボン)？
頑固派(ウッド)？
現実派(スチール)？



●年中無休
●営業時間
AM 9：00～PM 9：00

ラケットショップ元町



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390

●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215

●横浜店 テニス・バドミントン
☎045-651-2020

バドミントン3

❷
ワールドカップ'79
リム・スイ・キン独壇場

❹
ワールドカップ'79
コーペン、戦国を勝ち抜く

❻
ワールドカップ'79
植野・米倉組、堂々の完勝

❿
インドネシア・プレーヤーにインタビュー
BAGUS　またお会いしましょう

⓬
読者投稿＝BRONZE PRIZE〈宗像弘正〉
バドミントンに魅了された一日

⓮
読者投稿＝GOLD PRIZE〈小野純一郎〉
驚嘆・興奮・感動のプレーを満喫

⓱
読者投稿＝写真の部
GOLD PRIZE〈河野利兼〉

㉙
ハッシュマン夫人・連載
集中力

㉜
栂野尾悦子・連載
私の観念を変えた中国チームの迫力

㉞
意見交換のページ・増田保夫
ダブルスにおける基礎練習法

㊲
意見交換のページ・川合征男
練習計画表について

㊳
ロンドン・山本洋彦
氷上の対決　全英前哨戦？

㊴
寺田太郎・連載
新劇小史

㊶
読者と編集者
近藤小織選手に強い味方

㊷
カナダ遠征
若手チームが好成績

㊹
関東大学対抗リーグ戦のお知らせ
編集室から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝ワールドカップ'79ダブルスチャンピオンのクリスチャン・チャンドラ組（インドネシア）

第1回ワールド・チャンピオンズ・カップ・バドミントン・トーナメント

リム・スイ・キン独壇場

"世界一俊敏な男"お披露目

第1回ワールド・チャンピオンズ・カップ・バドミントン・トーナメントは、各サテライト大会の後を受け、1月19・20・21日の3日間、東京・代々木第2体育館で盛大に開催された。

豪華な一流プレーヤーの競演とあって、最終日には3千5百名を越える観衆で膨れ上がり、第1回にふさわしい盛況となった。

▽男子シングルス一回戦

辻（ヨネックス）2（15—3, 15—3）0 リダー（H）

▽2回戦

リム・スイ・キン（IN）2（15—7, 15—12）0 土田（電電東京）

M・F・ハンセン（D）2（15—11, 15—4）0 飯野（ヨネックス）

タルボット（E）2（15—6, 15—11, 8—15）1 銭谷（カワサキ）

ジョリー（E）2（15—6, 17—18, 15—9）1 辻（ヨネックス）

スティブンス（E）2（15—13, 15—11）0 長谷川（中大）

スミラット（IN）2（15—5, 15—1）0 長谷川（明和養護教）

デルフス（D）2（15—1, 15—4）0 小島（RS元町）

プラカシュ（I）2（15—5, 17—16）0 梅野尾（ヨネックス）

▽準々決勝

リム・スイ・キン 2（6—1, 15—3）0 ハンセン

ジョリー 2（15—11, 15—4）0 タルボット

スミラット 2（15—10, 15—9）0 スティブンス

デルフス 2（15—12, 18—17, 3—15）1 プラカシュ

▽準決勝

リム・スイ・キン 2（15—5, 15—7）0 ジョリー

スミラット 2（15—7, 15—7）0 デルフス

▽決勝

リム・スイ・キン 2（15—8, 15—8）0 スミラット

「リム・スイ・キンに始まり、リム・スイ・キンに終った」大



"若武者"リム・スイ・キンに栄冠

会となった。

あのヨーロッパの至宝・デルフスも、インドの星・プラカシュも、リム・スイ・キンの前にはただ一人のプレーヤーでしかなかった。

それほどリム・スイ・キンは卓越していた。

シャトルを追うヒョウのような眼、身のこなし、躍動美溢れるバネのような身体の美は、前代未聞であった。

フォームがどうの、オフェンスがどうの、ディフェンスがどうのという問題ではない〝瞬間の肉体の美〟が、これほど目に焼きつくことを教えられたのだ。

決勝では、デルフスを撃破した僚友スミラットを、あっさりと料理、格の違いをまざまざと見せつけた。

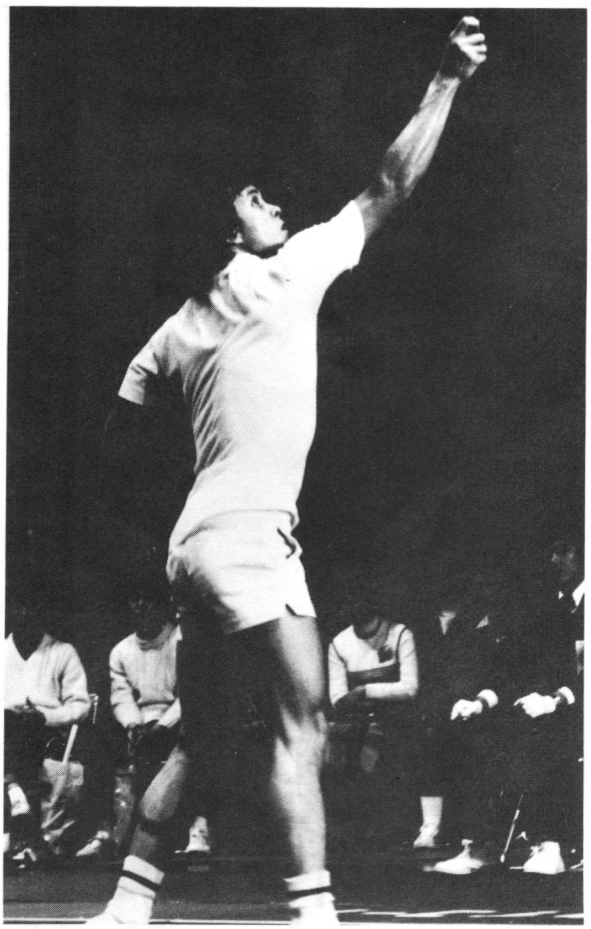
お国柄、スミラットは実力の半分も出さしてもらえなかったのだろうが、仮りにお互い真剣に戦ったとしても、結果は同様であったろう。

実に一番の被害者はスミラット。

ハルトノが峠を越したと思ったら、今度はリム・スイ・キンの出現により、世界一の座へつくことはもはや不可能か。天性の鋭いシャープなスイングが哀れでならない。

それにしても、リム・スイ・キンの前途は洋々、弱冠21歳を考えると、ハルトノの7年連続8回の全英優勝の記録を破る可能性は十分である。

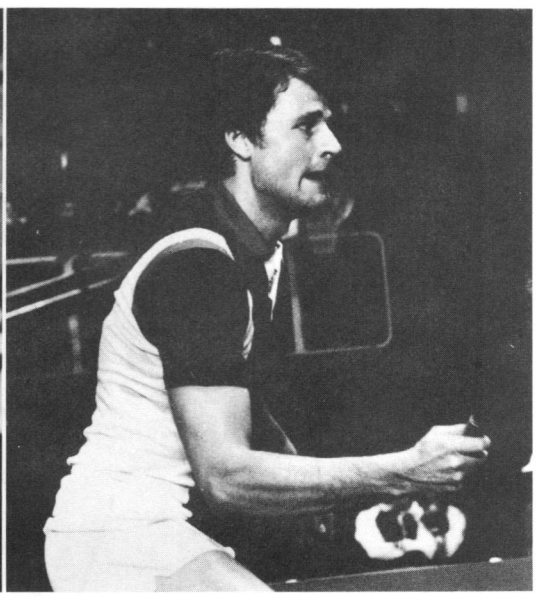
1メートル68（推定）の小柄な身体が、宙にフワッと浮くや弾丸のようなスマッシュを、誰よりも鋭角に打ち込む男、それが〝世界一俊敏な〟リム・スイ・キンであった。



バックハンドに著しい成長のリム・スイ・キン



スミラットのシャープなスイング



迫力がなくなったデルフス

第1回ワールド・チャンピオンズ・カップ・バドミントン・トーナメント

コーペン、戦国を勝ち抜く

湯木、第1回を飾れず

▽女子シングルス1回戦

ビューセコム（H）2 11—3 11—2 0 石田（日女体大）

近藤（カワサキ）2 11—5 11—2 0 ブリストル（U）

テレシア（IN）2 11—5 1—11 11—7 1 大塚（日体大）

イバナ（IN）2 3—11 11—7 11—6 1 関根（日体大）

米倉（電電東京）2 3—11 11—5 11—2 1 チャン・ソーガン（IN）

土田2 11—4 11—3 0 スコブガード（E）

▽2回戦

コーペン（D）2 11—7 11—4 0 徳田（サントリー）

植野（ヨネックス）2 5—11 11—8 11—6 1 クラークソン（C）

ベラワティ（IN）2 11—1 4—11 12—11 1 ビューセコム

テレシア2 11—8 12—10 0 近藤

イバナ2 11—4 7—9 11—6 0 土田

ギルクス（E）2 12—11 12—11 0 米倉

ペリー（E）2 7—11 12—11 11—4 1 高田（サントリー）

▽準々決勝

湯木（カワサキ）2 11—0 9—11 11—2 1 ダマヤンティ（IN）

コーペン2 11—1 11—6 0 植野

ベラワティ2 11—4 11—1 0 テレシア

イバナ2 12—10 12—10 0 ギルクス

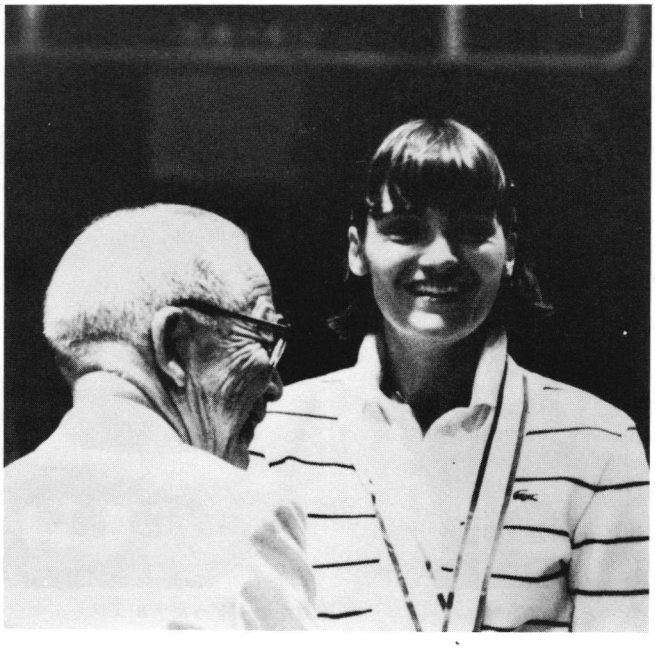
湯木2 11—3 11—7 0 ペリー

▽準決勝

コーペン2 11—1 3—11 12—11 1 ベラワティ

湯木2 11—2 11—3 0 イバナ

▽決勝



コーペン会心の笑み

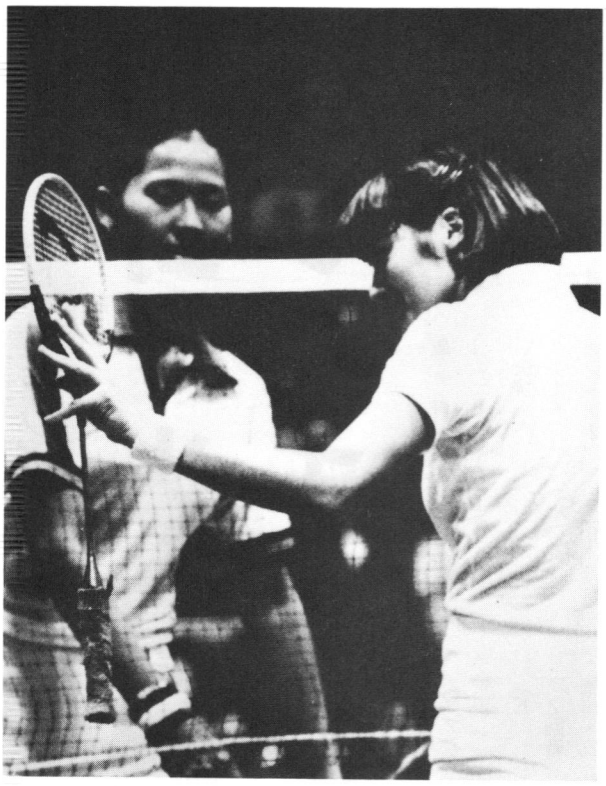
コーペン2（11―7 11―6）0湯木

世界の一線級がもれなく勢揃いした女子シングルス、まず関心を集めたのがドローイング。

そして、その不運の波をまともに浴びたのが徳田、よりによって第1シード・コーペンと対戦する2番くじを引き当て早くも「ダブルスに焦点を合わせます」と、日頃の強気はどこへやら、そんな気持が反映したようにこころなしか元気のないプレーで、コーペンにストレート負け。これも日頃は元気のよい近藤も、テレシアを声援するインドネシア応援団に気後れしたのか、いつもの気合いが見られず敗れ去った。

日本の〝三本柱〟として、まだまだ頂点を狙う湯木は、2回戦でインドネシアの若手、ダマヤンティに苦しめられたが、ペリー、イバナを一蹴して2位に食い込み、健在ぶりを示した。

全盛期のスピードこそ、やや衰えてきたが、プレースメント、試合運びには追随を許さないものがあり、やはり〝ここ一番〟には強いものがあった。



コーペン対ベラワティの大激戦

優勝候補の一角にあったギルクスは、長崎大会前に足を負傷し、いま一つ集中力に欠けて、インドネシアの成長株、イバナに敗れ、上位進出を断たれた。

イバナは、まだ18歳のあどけなさの残る学生だが、年に似合わず勝負強さを持ち合わせ、エンジンがかかると強打で押してくる、インドネシアのホープである。

今大会、インドネシアは20歳のダマヤンティ、19歳のチャン・ソー・ガンと3人の若手を送り込んで、ユーバー杯奪還へ着着と足固めをしてきた。

日本の次期の挑戦者となるのは必至である。

そのインドネシアのエースとして、確実に成長しているベラワティは、準決勝でコーペンと大接戦を演じた。

コーペンのクリアー、ベラワティのカットといった戦いになり、日本人とはひと味違った内容に、場内も水を打ったように静観。

第1ゲームを惜しくも失ったベラワティは、第2ゲームには見事なカットショットでコーペンを泳がせ、勝敗は第3ゲームへ持ち込まれた。

ファイナル・ゲームも一進一退のまま7オールとなったが、強気で鳴るコーペンは、ここでスマッシュを多用して勝利をつかんだ。

まさに、シングルスにおけるコーペンの執念を見せつけた場面だった。

円熟期にさしかかるコーペンは、決勝の湯木に対しても、速いクリアーで主導権を握り、余裕ある動きを見せ、ヨーロッパに優勝をもたらした。



湯木も復調のきざし

第1回ワールド・チャンピオンズ・カップ・バドミントン・トーナメント

植野・米倉組、堂々の完勝
クリスチャン組、余裕十分

▽男子ダブルス一回戦
クリスチャン・チャンドラ（IN）
2 15-8 15-5 0
田所・大場（電電東京・ヨネックス）

タルボット・エディ（E）
2 15-8 15-7 0
池田・梅野尾（電電東京・ヨネックス）

デルフスコブガード（D）
2 18-17 10-15 15-3 1
尾崎・辻京（電電東京・ヨネックス）

飯野・土田（ヨネックス・ジョリー）（E）
2 15-6 18-13 16-17 1
スティブンス・ジョリー

▽準決勝
クリスチャン・チャンドラ
2 15-8 15-5 0
タルボット・エディ

▽決勝
飯野・土田
2 15-10 15-13 0
デルフスコブガード

クリスチャン・チャンドラ
2 15-3 15-8 0
飯野・土田

▽女子ダブルス一回戦
コーペンビューセコム（D・H）
2 15-4 15-0 10-15 1
谷・秋本（サントリー）

イメルダ・ベラワテ（IN）
2 18-14 18-14 0
近藤・渡辺（カワサキ）

関根・塚大（日体大）
2 15-12 6-15 15-5 1
クラーク・ソン・ブリストル（C・U）

ペリー・スコブガード（E）
2 15-11 12-15 18-17 1
湯木・ギルクス（カワサキ・E）

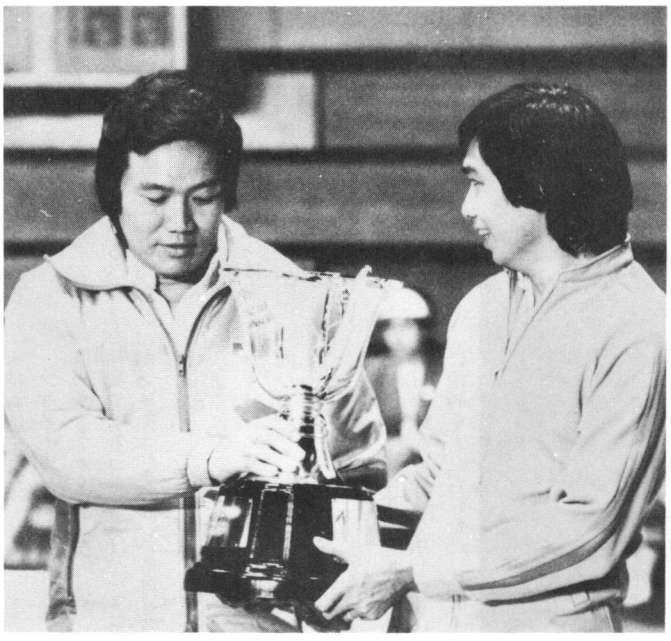
▽2回戦
徳田・高田（サントリー）（IN）
2 15-8 15-8 0
テレシア・ガン

イメルダ・ベラワテ
2 15-7 18-16 0
秋本・谷

関根・塚大
2 15-5 17-14 0
ペリー・スコブガード

植野・米倉（ヨネックス・電電東京）
2 15-5 15-7 0
イバナ・ダマヤンティ（IN）

▽準決勝
イメルダ・ベラワティ
2 18-15 15-6 0
徳田・高田


余裕しゃくしゃくの制覇、クリスチャン・チャンドラ組

植　野　2　15—2
米　倉　15—7　0　関　根
▽決勝　大　塚
植　野　2　15—3
米　倉　15—7　0　イメルダ
　　1　0　ベラワティ

男女とも、決勝戦はインドネシア対日本となったが、さすがにビッグイベントだけあって、1回戦から好試合が展開された。

まず挙げなければならないのが、尾崎・辻組対大男コンビ・デルフス・スコブガードの大一番。

第1ゲームは、壁のような外人ペアに圧倒されたのか、なす術(すべ)もなく落としたものの、第2ゲームに入ると俄然元気をとり戻し、尾崎の丁寧な配球と、辻の強打がうまく噛み合って、外人ペアの乱れを誘い出した。

なぜか昨年のような迫力に乏しいデルフスと、サービスに安定感のないスコブガードは、1本鮮やかに決めても、2本凡ミスを繰り返すといった悪循環。


意地を見せた植野・米倉組

このスキを突いて、尾崎・辻はファイナル・ゲームへと、勝負を持ち込むことに成功した。

ファイナル・ゲームになっても、デルフス・スコブガードはどうしても波に乗り切れず大苦戦。

尾崎・辻は、大敵を倒す絶好のチャンスとばかりに一気呵成(いっきかせい)に攻め立て、遂に14—12と、マッチポイントを奪った。

しかし、ここから顔を真っ赤にしたスコブガードの反撃が始まった。

2メートル近い長身を生かし、サービス・レシーブをことごとくプッシュで潰して、まさにネバーギブアップといった形相。

セッティングになってからも、尾崎・辻は、再三マッチポイントを握りながら、惜しくも殊勲の星を落としてしまった。

女子の、近藤・渡辺組もイメルダ・ベラワティに迫る粘りを見せた。

早目早目にと攻撃を仕掛けてくるイメルダ・ベラワティに対し、よく拾い、日本独特の相手を振り回す戦法で対抗、善戦という言葉がぴったりの内容だった。

しかし、守る側の弱味か、1・2ゲームともセッティングになるとポイントが取れず、善戦の域を脱し切れなかった。

日本チームの期待、飯野・土田は1回戦のスティブンス・ジョリーに苦戦はしたものの、準決勝ではデルフス・スコブガードに見事なストレート勝ちを収めた。

切れ味のよいスマッシュが、飯野の右腕、土田の左腕から小気味よく繰り出され、デルフス組を守勢一方に追いやり完勝。

不振の男子にあって、唯一の決勝進出を果たした。

一方、女子の第1シードとして優勝候補の呼び声高かった徳田・高田は、レシーブに回りすぎる悪い癖が出て、イメルダ・ベラワティの力に押し切られてしまった。

レシーブが百パーセント完璧でない限り、やはり攻撃している方が強いということを、如実に示してくれた一戦だった。

準決勝で植野・米倉に敗れはしたが、関根・大塚は大健闘といえよう。

ダブルス巧者のペリー・スコブガードに競り勝って、日本女子の層の厚さを見せてくれた。

男子を制したクリスチャン・チャンドラは、貫禄十分。

僚友チュン・チュン、ワジュディ組に名を為さしめているとはいえ、実力はほぼ互角、〝誇り高き世界2位〟のテクニックを発揮して、飯野・土田でさえ〝子供扱い〟の感があったのは驚異であった。

あの飯野の〝カミソリスマッシュ〟を、いとも簡単に、無造作に返球、そのスピードがスマッシュにも劣らぬ速さとあっては、しばし呆然となった日本ペアの心境も察しがつこうというもの。

豪腕というか、バックスイングをとらずに強いリターン、ネット前では自由自在なコースの読み、天性なのか努力なのか、不気味なまでに底力を秘めていた。

日本に貴重な一勝をもたらした植野・米倉は、作戦的、頭脳的に著しい成長の跡がうかがわれた。

長身1メートル78のベラワティのスマッシュを避け、打っては相手の苦手なバックハンドへシャトルを集め、攻守ともにパーフェクト。

イメルダ組に反撃の機をまったく与えず、女子ダブルスの決勝としては珍しいほど、一方的な勝利を収めた。

サテライト大会・記録

各地で大盛況

憧れのスターに感激!!

○1月13日　神戸大会

スミラット 2 15 15 10 7 0 辻
錢谷 2 15 17 14 8 0 エディ
スミラット 2 15 15 13 0 錢谷
ギルクス 2 11 11 4 5 0 高田
尾崎 2 15 15 3 15 6 12 1 スティブンス・ジョリー
ギルクス 2 11 12 10 12 5 10 1 徳田
徳田 2 11 11 8 0 1 イバナ
徳田 2 15 15 4 8 0 1 ダマヤンティ・ガン
関根 2 15 15 8 15 5 0 テレシア
大塚 2 15 18 10 15 7 16 15 1 関根
高田 大塚

○1月14日　愛知大会

デルフス 2 15 15 4 11 0 谷口
ハンセン 2 15 15 11 3 0 土田
ハンセン 2 15 15 3 9 0 デルフス
飯野 2 15 7 12 0 スコブガード
コーペン 2 11 11 0 7 0 千葉
近藤 2 11 11 0 2 0 ブリストル
コーペン 2 11 11 9 1 0 近藤
ペリー スコブガ 2 15 17 10 16 0 近藤 渡辺
スミラット 2 15 4 15 9 12 15 1 錢谷

○1月15日　長崎大会

リム・スイ・キン 2 15 15 4 8 0 辻
池田 梱野尾 2 15 17 10 16 0 スティブンス エディ
リム・スイ・キン 2 15 15 8 10 0 スミラット
テレシア イバナ 2 15 18 14 11 13 18 1 秋谷 本
湯木 2 11 11 1 7 0 ビューセコム
湯木 2 11 11 11 1 12 4 1 イバナ
ビューセコム 2 11 11 3 7 0 石田
ジョリー 2 15 15 9 12 0 長谷川

○1月15日　札幌大会

タルボット 2 15 18 12 15 9 14 1 小島
タルボット 2 15 18 14 9 0 ジョリー
クリスチャン・チ 2 15 15 3 12 0 木村 遠藤
クラークソン 2 11 11 3 1 0 米倉
ベラワテイ 2 11 11 9 9 0 関根
ベラワテイ 2 11 12 4 9 0 クラークソン
ベラワテイ イメルダ 2 15 15 12 15 2 10 1 関根 大塚
植野 米倉 2 15 18 16 5 0 ダマヤンティ・ガン ベラワテイ イメルダ
植野 米倉 2 17 15 10 15 0 イ

○1月15日　仙台大会

デルフス 2 18 15 14 8 0 土田
プラカシュ 2 15 15 6 9 0 飯野
デルフス 2 15 15 4 15 3 7 1 プラカシュ
徳田 2 11 11 0 4 0 ブリストル
コーペン 2 11 11 2 2 0 近藤
コーペン 2 11 11 6 8 0 徳田
ハンセン スコブガ 2 15 18 15 12 0 田所 大場
徳田 高田 2 15 15 8 13 0 ペリー スコブガード

神戸・刈谷・長崎・札幌・仙台

来たれ!! バドミントンキャンプ

バドミントン・キャンプ

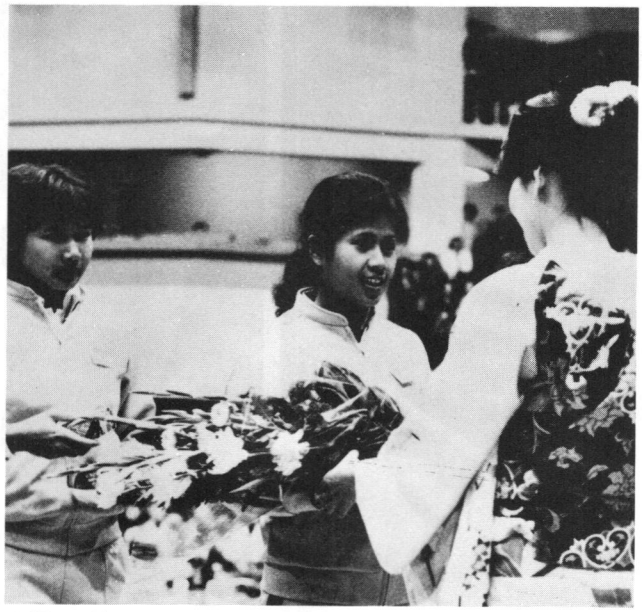
主　　催　ラケットショップ元町
協　　賛　YONEX, 河崎ラケット, サンバタ
参 加 費　￥22,500
場　　所　群馬県吾妻郡嬬恋村大字千俣611
　　ヤマタ・ホステル
　　TEL　02799－6－0101
宿　　舎　同　上
期　　日　S54年4月6日(金)　7日(土)　8日(日)
集合・場所　S54年4月5日　PM9:30集合
　　出発PM10：00
　　横浜駅西口天理ビル前
交通機関　バス（勤労者観光センター）
募集人員　50名（18歳以上）
申込締切日　S54年3月25日(ただし定員になり次第締切らせていただきます。)
申込方法　申込用紙に必要事項を記入し、参加費にそえて直接持参または、現金書留で受け付けます。
　　申込金￥10,000残金は出発前日まで，取消の場合申込金は返却しません。
その他　全員の方に，旅行傷害保険（スポーツ傷害保険含む）に入っていただきます。(保険料は参加費に含まれています)

お申込み・お問い合わせは

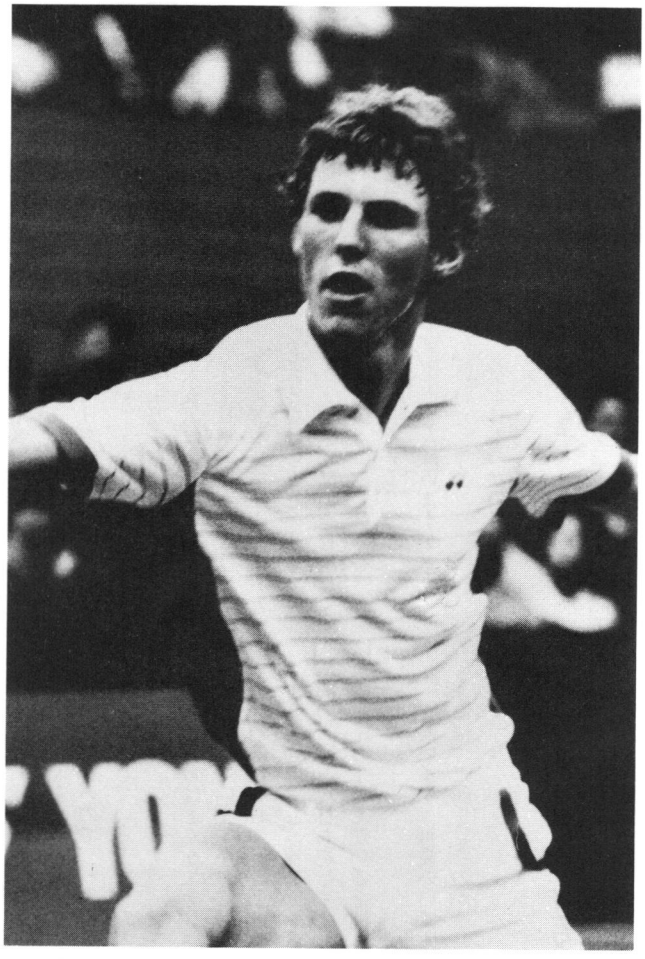
● ラケットショップ元町

横浜店　〒231 横浜市中区元町5－203
　　元町スカイビル5F
　　TEL　045－651－2020・662－9857
渋谷店　〒150 東京都渋谷区渋谷1－25－6
　　TEL　03－400－7390
池袋店　〒171 東京都豊島区西池袋1－19－6
　　TEL　03－988－0215

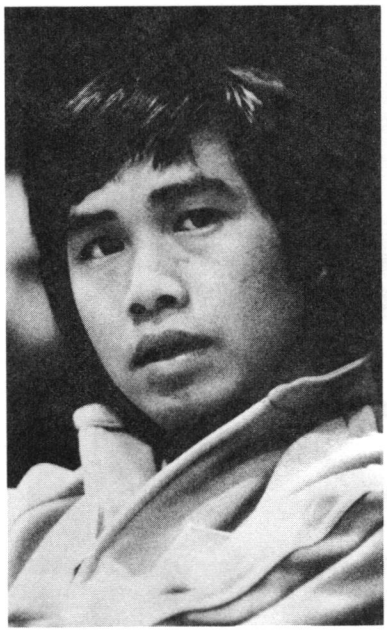
ラケットショップ元町

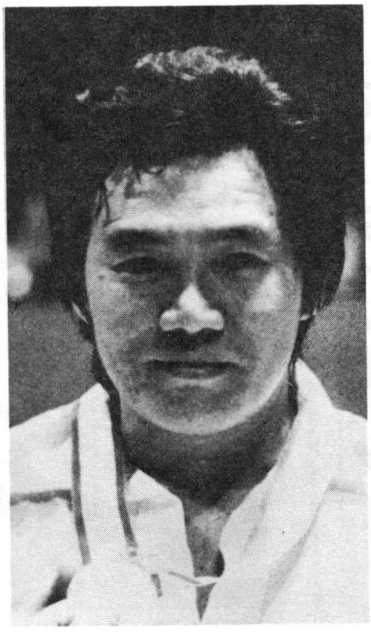


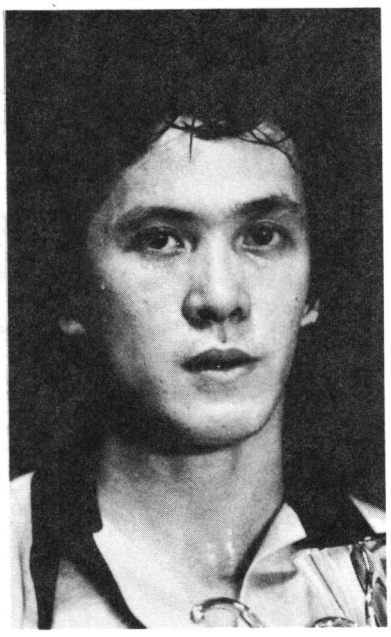
和服のお嬢さんから花束を受け取るテレシア(右)、イバナ〈神戸大会〉



愛知大会優勝のモルテン・フロスト・ハンセン（デンマーク）


クリスチャン・ハディナタ


アディ・チャンドラ


リム・スイ・キン

プレーヤーたちにインタビュー

しましょう

今回のワールドカップ'79ほど、インドネシアの第一線プレーヤーが来日したのは、ユーバー杯とトマス杯大会を除いて例がない。

けっして大きくない体で真剣にシャトルを追い、他の選手のプレー中は、ベンチに座って一生けんめいに応援する。

その態度に満場のファンは魅了された。そこで、リム・スイ・キン、チャンドラ、クリスチャン、ベラワティ、チャン・ソー・ガンにインタビューしてみた。

◇リム・スイ・キン

――バドミントンを始めて何年になりますか。

「今年でちょうど10年目になります」

――練習はいつもどのくらいしていますか。

「週5日間、1日5時間のうち朝2時間夜3時間です」

――今大会の調子はどうですか。

「アジア大会の時が最高潮だったのに比べ、少し落ちていますが、まあベストに近い状態です」

――日本は初めてですか。

「はい」

――どんな印象ですか。

「大変気に入りました」

――日本の観客はどうですか。

「インドネシアに比べて、とてもおとなしいと思います」

――大学では何を専攻していますか。

「経済学です」

――恋人はいますか。

「いいえ（？）」

――日本の女の子はどうですか。

「とてもチャンティック（チャンティックはインドネシア語でかわいいの意）」

――インドネシアには「バドミントンの神様」と呼ばれるハルトノ選手がいますが、彼の持つ全英選手権7連勝・通算8回の記録を破る自信はありますか。

「ベストを尽くしてみなくてはわかりませんが、もちろん挑戦してみたいと思っています」

◇アディ・チャンドラ

――ものすごい底力ですが、どんな日常ですか。

「とくに会社づとめをしているわけではないので、バドミントンに専念しているといったところです」

――練習はどんなスケジュールでしていますか。

「練習は週5日で、毎朝2時間トレーニングし、夕方から3時間のシャトル打ちをします」

――お子さんがいると聞きましたが……。

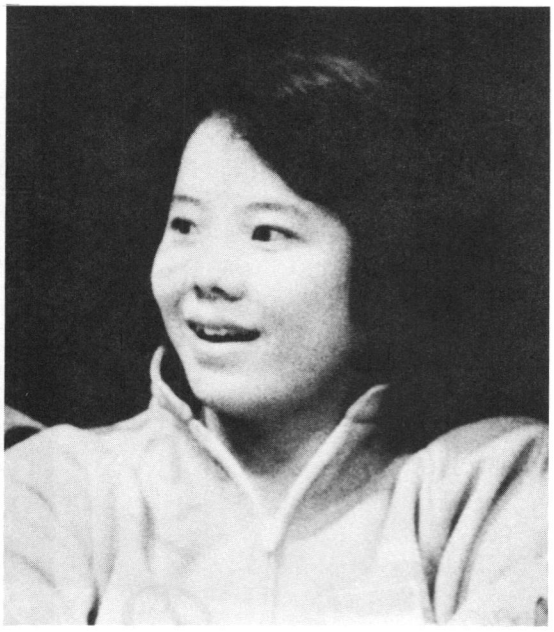
「一人います。可愛いいですよ。家に帰って顔を見るのが楽しみです」

◇クリスチャン・ハディナタ

――練習は？

「アディと同じです」

チャン・ソー・ガン



ベラワティ・ウィハルジョ



迫力あふれるプレーと、真剣な態度で人気ふっとうのインドネシア・

BAGUS またお会い

――インドネシアでは女性ファンに大変な人気があると聞きましたが、まだ独身ですか。

「いいえ、昨年の11月末に結婚しました」

――それでは奥さんが寂しがっているでしょう？

「どうかな」（笑）

――アディと組んだダブルスは強すぎて、日本のペアでは歯が立たないようですが、日本のダブルスの印象を。

「かなり強いと思います。とくに飯野君と土田君は、スピードもあるし、スタミナもある。これからもっといいダブルスになるでしょう」

♡ベラワティ・ウィハルジョ

――毎日どんな生活ですか。

「私は大学生ですが、練習時間などは男子と一緒です」

――アジア大会の時とくらべて調子はどうですか。

「ちょっと寒いけど、大丈夫。調子はいいです」

――3月の全英選手権でも好成績を期待しています。

「どうもありがとう、一生けんめいがんばります」

――最後にもう一つ聞かせてください。ボーイフレンドはいますか。

「（パッとほほを赤らめて、聞きとれないような声で）はい、います」

♡チャン・ソー・ガン

――日本は初めてだと思いますが、印象は？

「とてもすばらしい国ですね。お客さんも応援してくれるし、日本に来ることができて本当によかったと思います」

――もうお土産は買った？

「まだ買ってません。試合場とホテルの間を往復しているだけで、街には出かけていないし、ちょっとホテルで見たけど、みんな高いみたい……」

――高校へ通っているそうですが、家族は何人ですか。

「男3人に女7人の10人家族です。私は上から7番目で高校3年生です」

――大学へは進みたいの？

「できたら行きたい」

――これからも強くなってまた日本に来てください。

「はい、早く強くなって家族のみんなを安心させてあげたいと思います」

読者投稿／ワールドカップ'79を観戦して

BRONZE PRIZE

バドミントンの楽しさに魅了された一日

横浜市磯子区・宗像弘正

久し振りに、バドミントンの試合が見たくなって、代々木第二体育館を訪れた。一月二一日、日曜日である。私はここに来るとよく感じるのだが、バドミントン会場の雰囲気ほどなごやかでアマチュアスポーツの良さを持っているものはなく、いまどき珍しいものの一つではないだろうか。観客には子供達も多く、皆が一つの家族のようで出場する選手もくったくがなく、一般の人達の中に自然に溶けこんでいる。

話が前後するがこの日の女子ダブルスの決勝戦を見ていたら、小学生だろうか、女の子供達が叫んでいる。「うえのさーん、がんばってー」すると離れた観客席の一角からインドネシアの人達が不思議なアクセントの日本語で「はーい、がんばるよ」と答える。コートでは植野選手が相手のサーブの動作を見つめながら、はりつめた空気の中でニコッと笑った。

これがバドミントンという競技の良さなのかも知れない。白いシャトルは弾丸のようにするどくコートにつきささる反面、雪か花のようにゆっくりと落ちてくる。誰にでも親しめる競技でありながらどんなにすぐれたプレーヤーが一生けんめいに練習を積んで、その技をみがいても、それ以上にすぐれたプレーヤーが必ず出現してくる。

私が会場に入ってコートを見た時は、すでに女子ダブルスの準決勝の第一試合、インドネシアのイメルダ・ベラワティ組と日本の徳田・高田組の息づまるような攻防がくり返されていた。徳田・高田組は第2ゲームをリードしていたが、よもやと思うのもつかの間、じりじりと追い上げられてついにセッティングに持ち込まれた。

それにしてもあの体の大きい方のインドネシアの選手のスマッシュの強さと角度のするどさはどうであろう。今になって考えてみても、この選手がもっと今の荒削りから、こまかい技を身につけて、ひろって、ひろって不利な時にはつなぐようになり、ここぞという時に今のようにたたみこんできたら、これからどんなに怖しい強敵になるかわからないようなすごみを持っている。

ダブルスの決勝戦を前にして、これは日本の選手も簡単にはいかないぞとかなり不安になった。第二試合のダブルス準決勝戦は、植野・米倉組がミスをしないように戦ったため順当に勝ち上った。いったい、植野選手の強いスマッシュと角度のするどさには他の人の及ばない天性のパワーがあって、どうしてこの選手が全日本の女子シングルスの決勝戦になかなか勝ち上れないのか、不思議で仕方がない人も多いのではないだろうか。

もしかしたら性格的に人が良すぎて（欲が

あまりなくて）勝負に恬淡すぎるのが欠点なのかも知れない。勢いに乗ってスマッシュを決める時の強さは抜群で、一気に勝ってしまうが、逆境に立った時に、耐えて耐えて、たとえスコアが5―9からでも3―10からでも粘りに粘って少なくとも一度コートに立ったからにはどんなことをしてでも、相手のシャトルを自分のコートに落とさせたくないというある種の気の強さ―執念ともいえるもの―それは湯木選手や栂野尾夫人に見られるものだが、そのような気の強さが加われば、湯木時代に次いで植野時代を新しく築くことも十分できる人だと思うのだがどうであろうか。

反面、誰とでも仲良くなり敵がつくれない性格の素直さが見る者の心をなごませるのを見ていると、その性格の良さが植野選手の持ち味なのだとも思うが、勝負というものは強くなればなるほど、お互いに競り合ってでも勝たねばならぬ側面を持つ以上、これからは逆境の時にももっとしのぐことが必要なのではないか（ただし今回のダブルスの決勝戦ではサーブが非常にうまくなっているのと相手の意表をついた攻撃を見せたのが鮮やかに目に残った）。

次にリム・スイ・キン選手の男子シングルスの準決勝戦を見た。この選手の足腰のばねの強さ、手首の返しの強さは一種の天才を見る感があった。ことに、突きにも似たそのままラケットを突き出して相手に返すという早わざはすごい。

決勝戦で同国のスミラット選手が受け切れずに目にシャトルを当てたが、よほど返してくる速度が早い証明だろう。私見であるが、日本の男子選手がこの選手に勝つのは至難のわざなのではないか。自分の技術、頭脳プレーにあれほどの自信と誇りを持つ以上、その自信と誇りを砕くことは容易ではない。

概して、ヨーロッパの一流選手は体も大きく耐久力、持久力にすぐれているが、それに対してインドネシアの選手は速さにすぐれているのではないか。するどい動きということがインドネシアのバドミントンの特質なのかも知れない。その結晶がリム・スイ・キン選手なのである。このような選手はそうたびたび出てくるものではないかも知れないがやはりバドミントンの二つの本質を見た感は否めない。

女子ダブルス決勝はテレビの放送があるので、それまでに少し時間があり時間つなぎに混合ダブルスのエキジビジョンマッチが行なわれた。

――相手を追いこんでネット上に高く上ったシャトルを見ながらコペン選手が何か叫んでいる。完全に打ち込む体勢に入っているのに、照明の光の中にシャトルが入ってしまったらしく、打てなくなって、大ミスをしてにこにこ笑っている。

――その笑顔を見てああこれがスポーツの良さなんだなと思った。スポーツとは本来楽しいものであって、勝負にこだわりすぎると笑うこともできなくなろうが、シャトルが光の中に入って「わあ、こりゃあ、だめだ。どうにもならないわよ」と笑っているのは、得点出来る体勢に入っていただけに、いかにも楽しい。

私達も自分の応援する選手の勝ちに執着するあまり、相手選手のミスをよろこぶなどの無礼をするのではなく、相手のすばらしいプレーには惜しみない拍手を送るようにしたい。ことに国際競技となったような場合には、インドネシアの人達も、（今回はいなかったが）韓国の人達も大多数の日本人の観客に取り囲まれながらなんとかして勝つために必死に頑張ってプレーしているのである。良いプレーをした時にほめるのが見る者のマナーであって、どこの国のどんな人達でも良いプレーをした時は、ほめてもらえれば嬉しいし、拍手だけで観客の気持がわかるのである。

時の事を考えれば、外国選手に暖かい拍手や歓迎を表わすことが日本の選手も大事にされる大切な要素であって、相手のすばらしさをたたえることが、各選手にそれ以上の良いプレーを生む大切な励ましになるのである。

ダブルス決勝戦の迫力はやはりすごく、植野選手、米倉選手の反射神経のするどさと、練習のすべてが出てタイトルを得たがミスをした時に見せたあの大きなインドネシアの女子の選手が悲しそうな表情をしたのが可哀そうであった。何はともあれ、今年もまたバドミントンの試合を見に来てよかったと思った次第である。

読者投稿／ワールドカップ'79を観戦して

GOLD PRIZE

驚嘆・興奮・感動のプレーを満喫

仙台市片平・小野純一郎

遠路はるばる仙台からワールドカップ'79を観戦に上京したが、まさに驚嘆、興奮、感動の三日間だった。現在の世界バドミントンのトップレベルのプレーを大いに満喫した。準決勝、決勝は他の多くの方々が詳しく書かれると思うので、私は三回戦までで印象に残った試合を中心に観戦記、総評を書こうと思う。

〔男子シングルス〕

日本勢は辻以外すべて初戦敗退でがっかりした。目についたのは辻、土田、長谷川(博)だった。辻・リダー戦はリダーの力強いスマッシュを辻が粘り強く拾いまくり、機を見て反撃するというパターンで辻の進歩が感じられた。

土田・リム・スイ・キン戦は二回戦中の白眉で、土田はかなり得点し肉迫した。ダブルスの名手らしくスマッシュ・アンド・ネットが鋭く、攻撃力はかなりのものと感じた。しかしリム・スイ・キンはそれを上回り、攻撃でもひけをとらなかった。時おり放つジャンプ・スマッシュはほとんど決まっていた。ドリブン・クリアーに飛びついてたたくので、クリアーかせいぜいカットを予想していた相手は、虚をつかれ手が出ないのである。守りも身が軽く、フットワークが素晴しく死角を感じさせなかった。

長谷川(博)はスティーブンスとせったが終盤追いあげたもので盛上りを欠いた。ホープ長谷川は柔軟なラケットワークが魅力で、見ていてほんとうにセンスが感じられ、テクニックでベテランにひけをとらないほどである。長谷川の課題はパワー・アップ(とくに脚力とバックハンド)と集中力の持続にあると思う。それらを克服して世界にはばたくことを切望する。

その他ジョリーは若手ながらベスト4に入り、闘志もあって好感が持てた。プラカシュのまじめさにも感心した。逆にハンセンのリム・スイ・キン戦棄権はがっかり。デルフスがスミラトに敗れたのも半ばやる気がなかったようで、デンマーク勢が元気なかった。

〔女子シングルス〕

関根・大塚はともにファイナルゲームでインドネシア勢に敗れた。勝つチャンスはあったが、関根は決め手を欠き、そのうえ身体が重い。大塚は集中力に欠ける。それに対し、植野・米倉はシングルスもかなり進歩し、植野は世界ランキング3位のクラークソンに逆転で勝ち、米倉はガンを圧倒し、負けたもののギルクスにも肉迫して着実に力をつけてきているという印象を持った。

二回戦の目玉は徳田・コペン戦で、仙台大会の決勝と同じような展開であった。コペンが執拗にドリブン・クリアーを打ち続け、徳田が返球のクリアー、スマッシュをアウトしたり、ドロップに逃げてクロスネットで決められるというパターン。徳田は粘ってだめ、打ってだめで困っていた。

コペンはまさに現在世界ナンバーワンで、抜群であった。個性的でユニークなプレーヤーで、バックハンドの打ち方も変わっているし、ホームの位置もかなり後ろである。そしてとにかく長い脚でコートをよく走り回り、長い腕でよく拾いまくる。精神的にも安定していてすきがない。

湯木・ダマヤンティ戦はアレヨアレヨという間にファイナルのセッティングとなって、湯木ファンの私にはひやひやの勝利だった。湯木が今大会決勝まで進出したのは立派であり、大きな感動を覚えた。湯木さん、まだまだやれるよ！がんばって下さい。

その他目についたのは、真剣なビューセコムの強さ。近藤の精神的もろさ。ベラワティのパワフルでダイナミックなプレー。彼女は今後のユ杯でも日本の大きな壁となろう。特筆すべきは、18歳のイバンナがギルクスに勝ったことで、インドネシアの層の厚さが目立った。

〔男子ダブルス〕

クリスチャン・チャンドラの戦闘的な姿勢、破壊的な攻撃力にはただ驚嘆で、田所・大場もがんばったが格が違う。この上のチュンチュン・ワジュディはいかばかりかと想像もつかない。池田・栂野尾は元気なく、逆に尾崎・辻は元気いっぱいで、デルフス・スコブガードにあとほんの少しの所まで詰め寄った。しかしどうもデルフスが真剣に全力でやっておらず、セーブしている印象を受けた。

飯野・土田は日本で敵なしだけあってタッチの速さ、鋭い攻撃力は確かに見事だが、外国勢に比べてシャトルが軽いという感じで、例えば一回戦のスティーブンス・ジョリー戦にしても一発の重さ、威力は相手の方が上であった。根本的な体型、体質の差かなと思ってしまう（胸板の厚さの違い！）。でも世界を目ざすにはさらなるパワー・アップが不可欠と思われる。

〔女子ダブルス〕

女子ダブルスは一回戦から熱戦の連続で、内容が豊かだった。谷・秋本とコペン・ビューセコム戦は、谷・秋本がダブルスとしてひとつの型をつかみ、自信を持っているのが感じられた。コペンはダブルスでも長い手足でよくシャトルをタッチしていたが、急造ペアではコンビにスキができたのもやむを得なかろう。近藤・渡辺はイメルダ・ベラワティという世界ランク2位のペアを相手に、ミスにも助けられたがよく健闘した。コンビもよいし渡辺もよく動き、チャンスボールを作って近藤の強打を引き出していた。しかし渡辺はやはりちょっと重すぎるし、近藤は大味でダブルス特有のうまさが欠けていると思った。

湯木・ギルクスには大きな期待を持ったが、やはり急造ペアのもろさでコンビと呼べるものがなく、それぞれの個人的力量のみが目立った。また言葉の障害も大きく、3ゲーム目の前に通訳を通して話し合っていたようだが、なかなか意志の疎通がうまくゆかなかったのではなかろうか。湯木はロングリターンはさすがだが、ネットに逃げるシャトルや、前衛を抜こうとするシャトルがかなり相手前衛にインターセプトされ苦しくなっていた（それが相手の得意技なのだ！）。

その勝者ペリー・スコブガードに勝った関根・大塚は立派。日本の伝統的女子ダブルスの流れをくみ、レシーブがしっかりしているのが強みである。それから、徳田・高田がイメルダ・ベラワティに負けたのは作戦の失敗で、相手に攻撃をさせすぎ、守勢に回りすぎたと思う。植野・米倉組の優勝は感激！　今大会はとくに好調で、コンビもよいし二人とも練習熱心で攻守とも進歩していると思う。二人ともレシーブのセンスがよく、守備範囲では徳田・高田に一歩譲るものの、返球の厳しさは一枚上ではなかろうか。攻撃もどちらも強打があるので強力。ただ、まずい点としては、浮いたスマッシュを相手がドライブでストレートに返球して、打った人の前に沈めた時で、手が出ずによく決められていた。

以上思いつくままに総評的に書いてきて、的はずれで失礼な言葉もあったと思うが悪意は全くなく、全プレーヤーの進歩・向上を願う気持ちの表われとしてご容赦願いたい。

〈宗像様にはブロンズ賞を、小野様にはゴールド賞をそれぞれお送りいたします〉







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

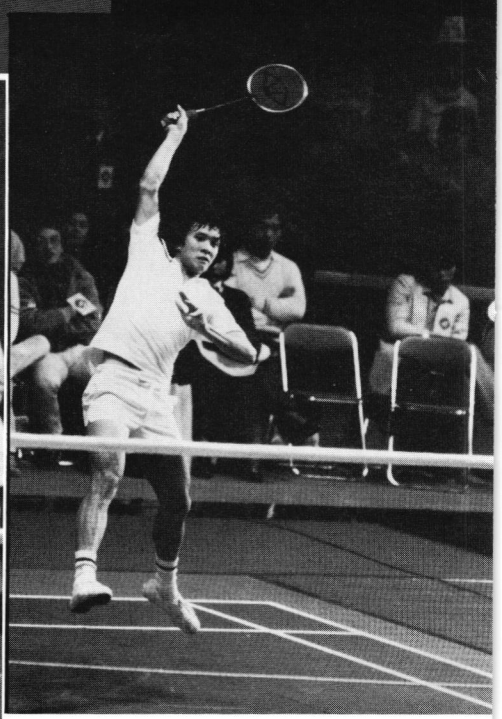
カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

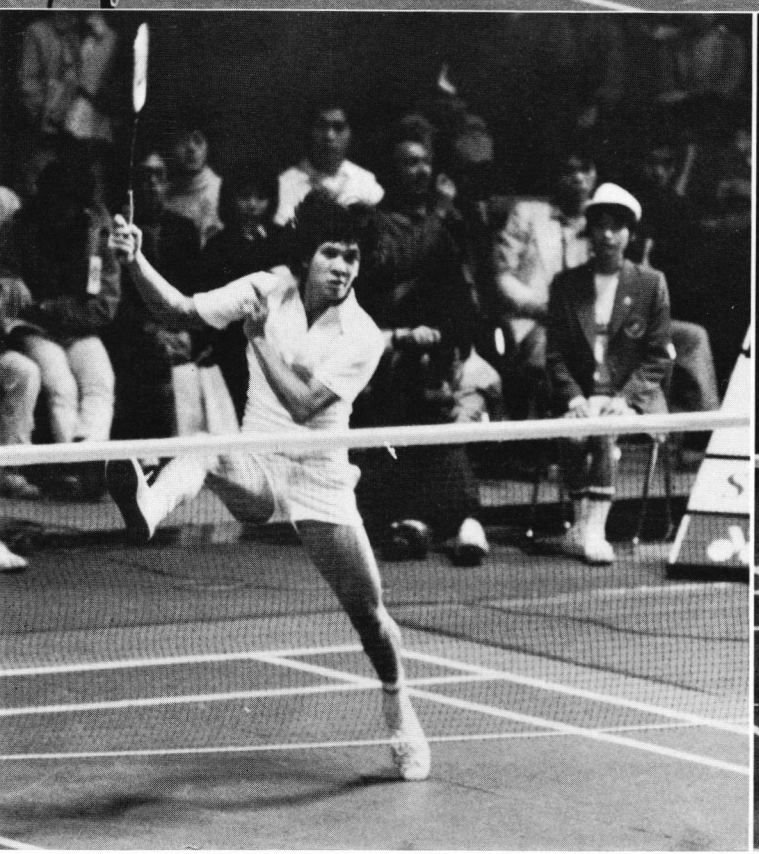
ワールドカップ'79読者写真コンテスト1位

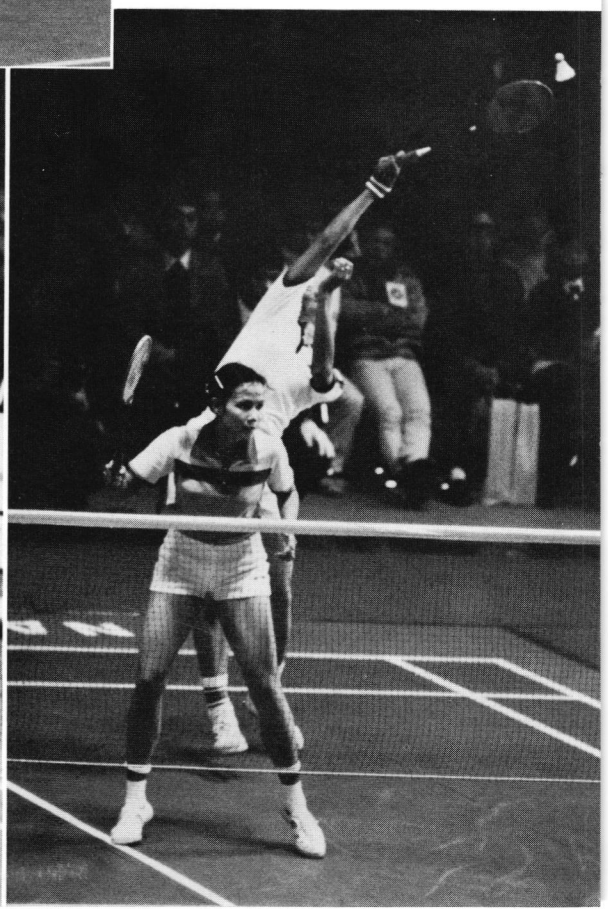




千葉県柏市若柴6-184・河野利兼(31歳)会社員
使用カメラ：ニコンFE、 MD－11モータードライブ、レンズ：180ミリ、F2.8 フィルム：コダック・トライX、データ：ASA1600、F2.8、1/1000秒

★当選おめでとうございます。選手用高級ラケットはじめ記念品をお送りいたします。





息ピッタリ、アディダス・ペア。

ADIDAS RACKET & SHOES PAIR



世界の第一線で活躍するアディダスのバドミントンシューズ。そして素材の特性をくまなく引き出し、パワーとコントロールを両立させたバドミントンラケット3種。

この強力ペアは、絶妙のチームワークであなたを勝利へ導きます。正確なショット、正しいフットワークにアディダス。

adidas®

The science of sport.

The all-sports people

adidas

●お求めはadidas特約店で

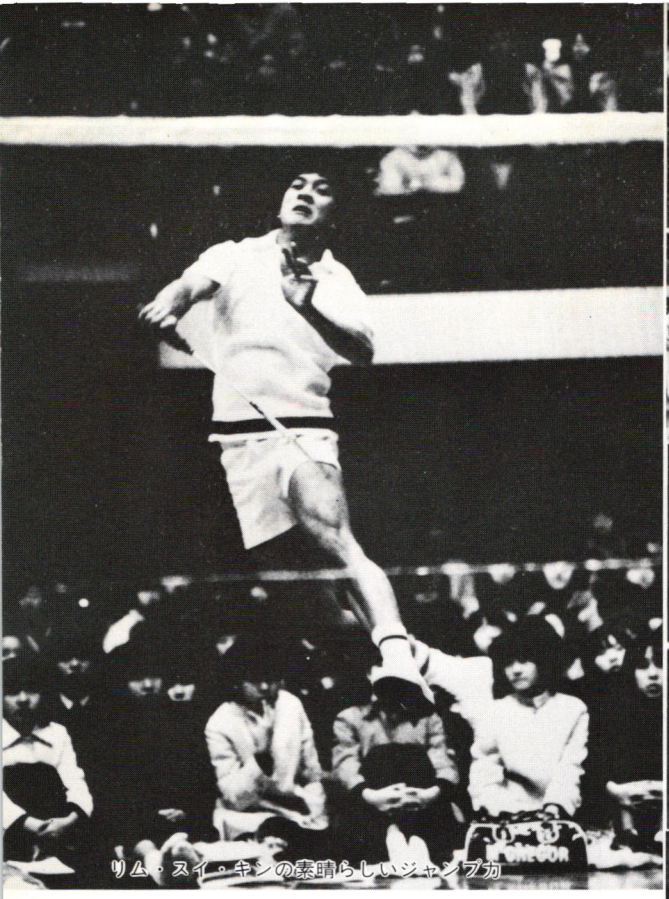
発売元 KBG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611

YONEX

ボディの美しさから開発した、主張のあるスポーツウェア。
単にカッコだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい
発想のスポーツウェアの誕生です。デザイン、あの三宅一生。
このほかヨネックスには、オリンピックスポーツウェアや、日本
バドミントン協会推薦のスポーツウェアをずらりそろえています。
プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの4特徴は、それぞれのデザイン
に、用途別にもラージ・スリー・ワンと3種類あること。長期遠
征用・短期遠征用・当日入会用と使い分けることができます。バッ
グにロゴを持ち込まないで、ヨネックスならではのアイデア
と技術はいかが。もちろん、ヨネックスであることも強い。

ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

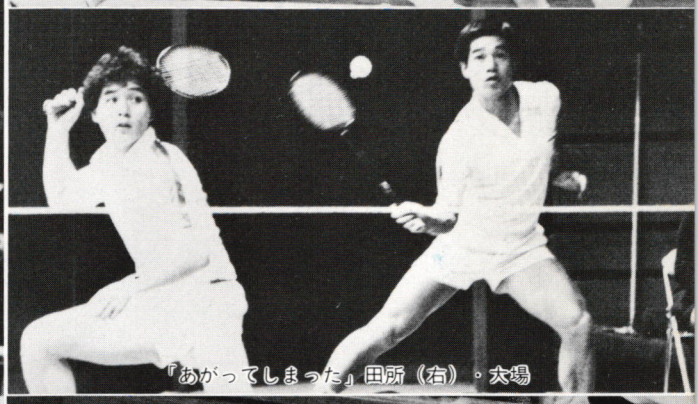
Flemming Delfs



リム・スイ・キンの素晴らしいジャンプ力



池田・梅野尾は非力を暴露



「あがってしまった」田所（右）・大場

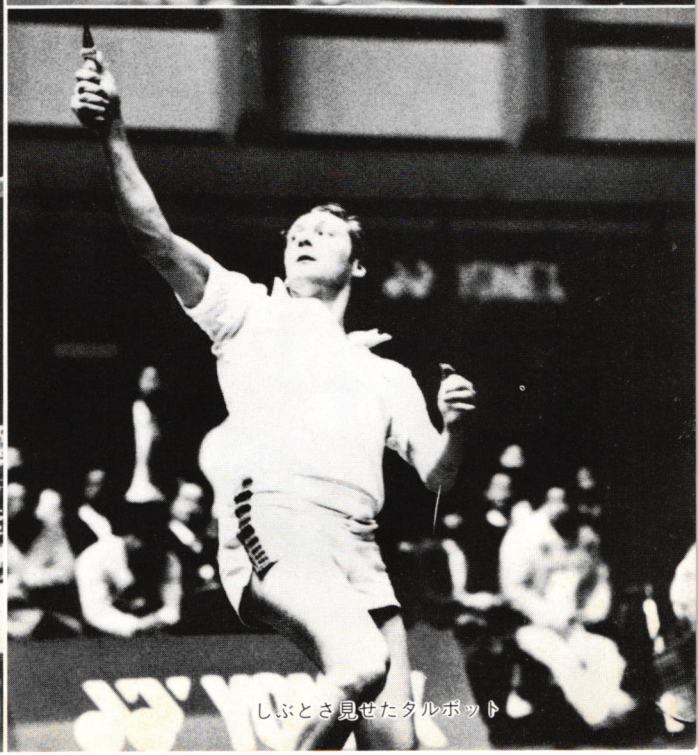


テレビにゲスト出演したハルトノ

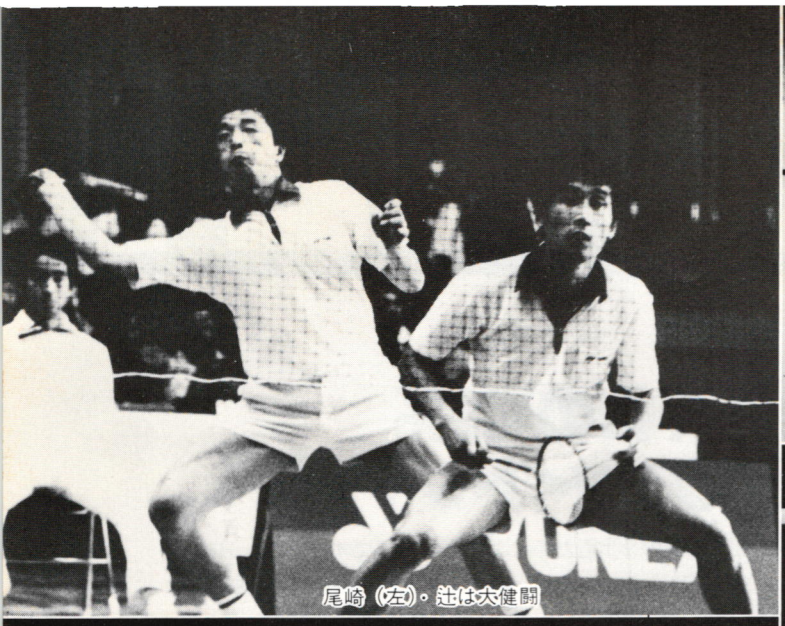
子パワー



デルフスを破ってスミラット株急上昇



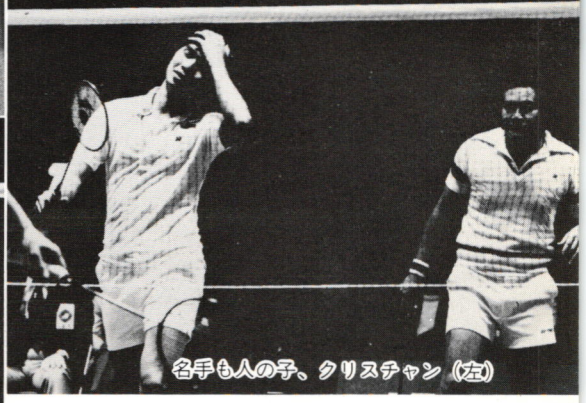
しぶとさ見せたタルボット



尾崎（左）・辻は大健闘

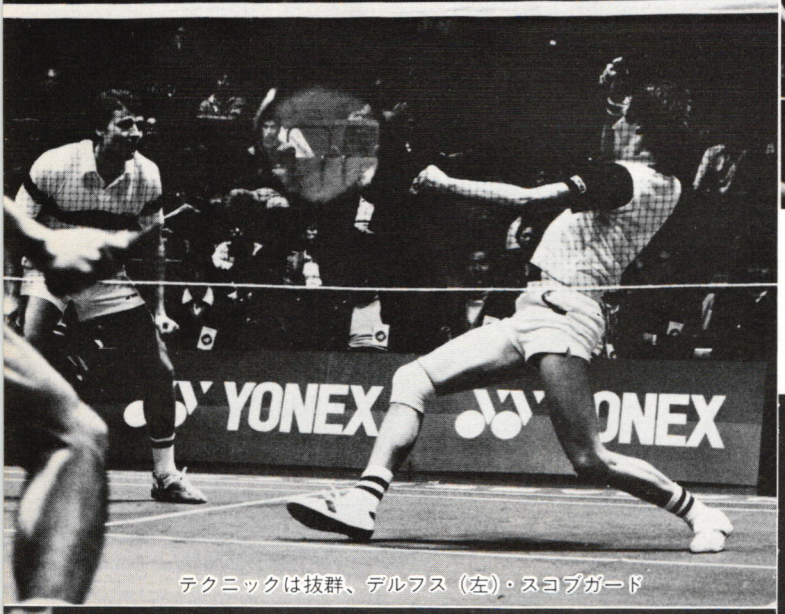


「しまった」デルフスを引いた小島

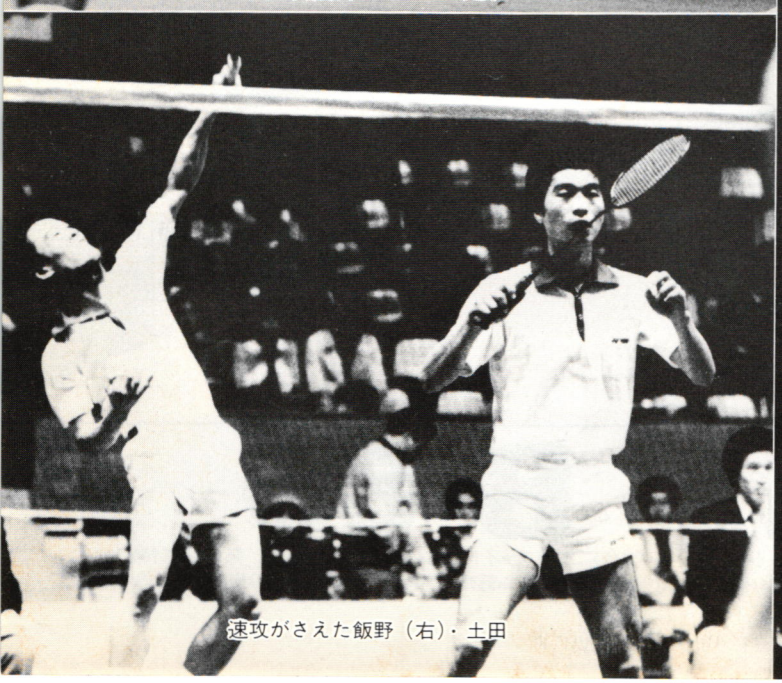


名手も人の子、クリスチャン（左）

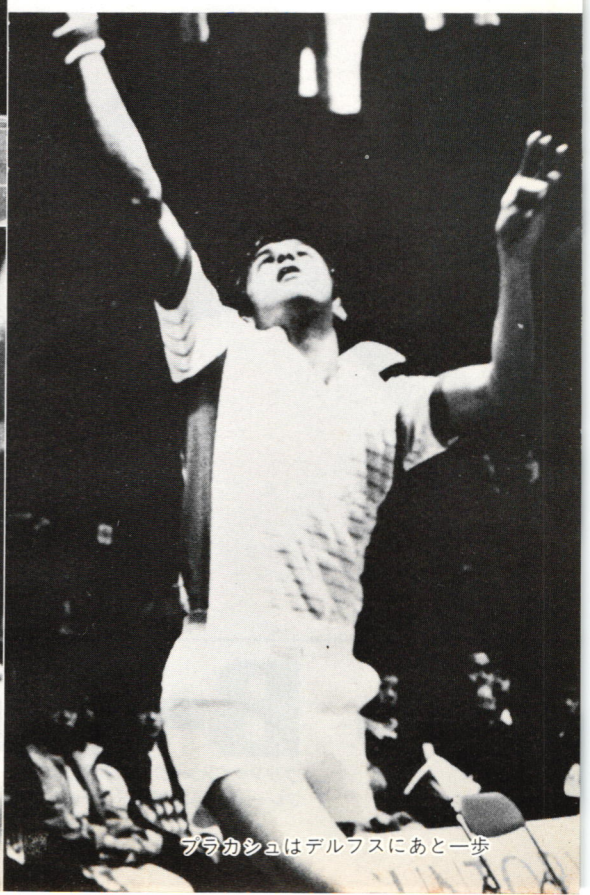
底なし男



テクニックは抜群、デルフス（左）・スコブガード



速攻がさえた飯野（右）・土田

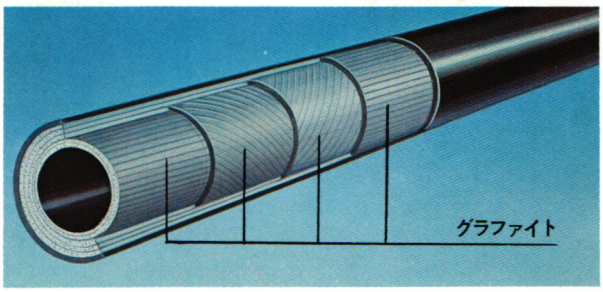


ブラカシュはデルフスにあと一歩

E RACKET

世界初の100%
グラファイトシャフト

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B－82・B-80もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。カワサキはこの難問を独特のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を4層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。



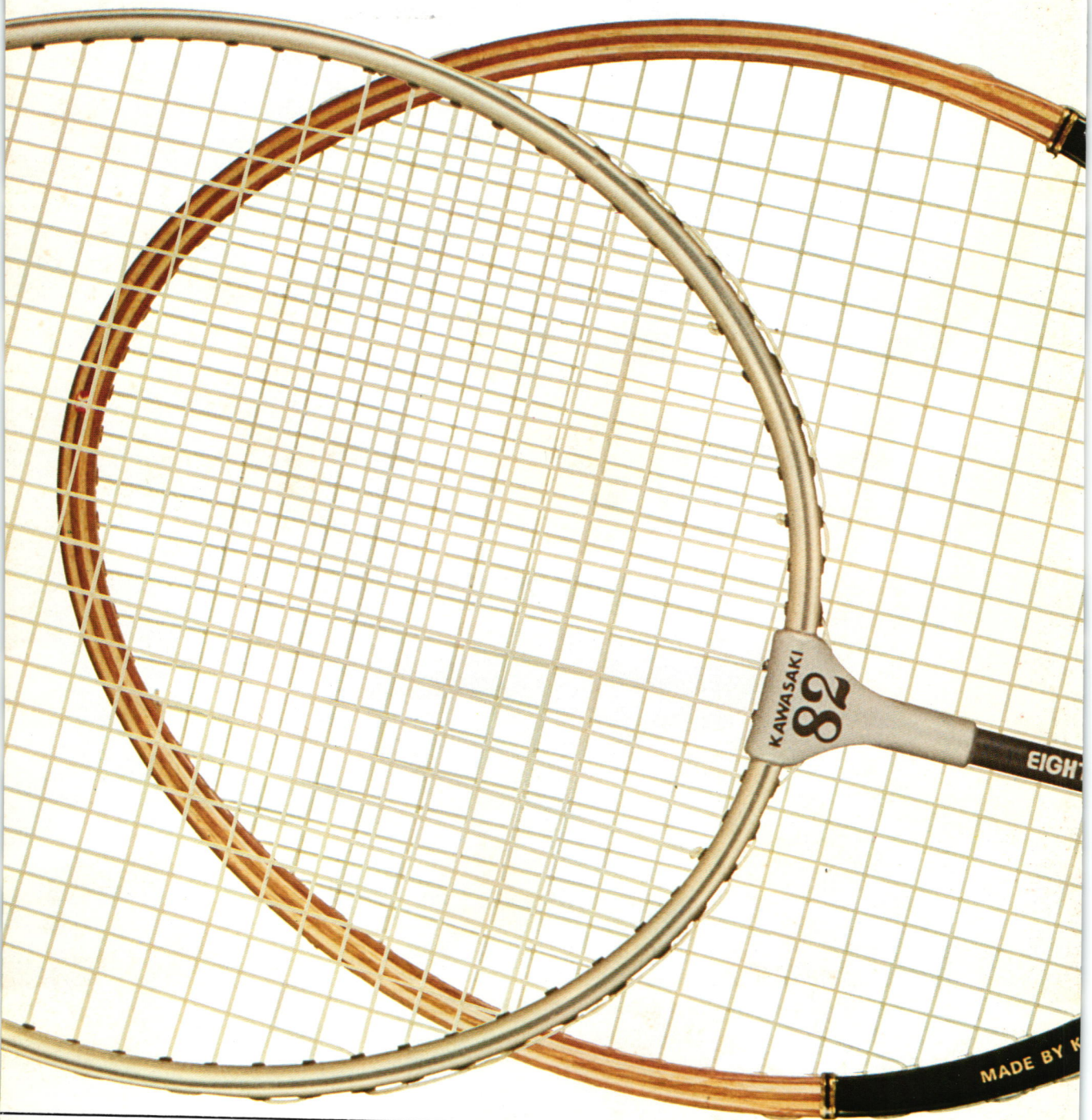
kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

AFT

B-82
グラファイトシャフト アルミフレーム シルバー（ケース付）
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,700円

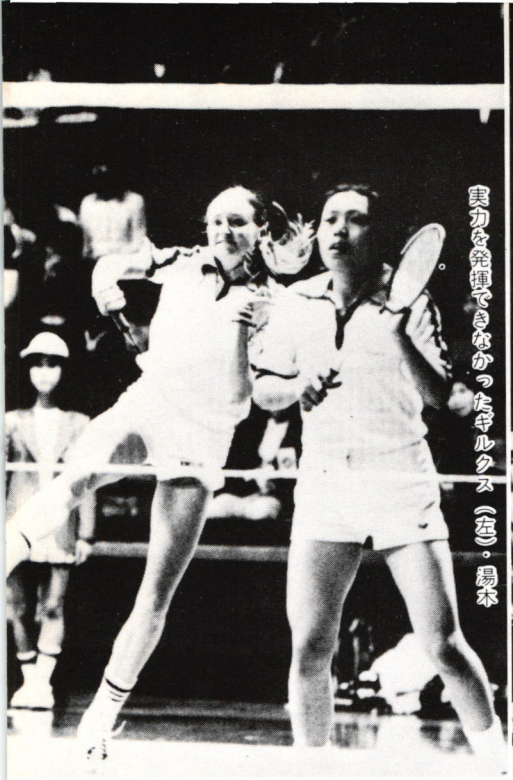
B-80
グラファイトシャフト ウッドフレーム 黒（ケース付）
フレーム価格7,700円 ガット張り上り価格8,400円

GRAPHIT

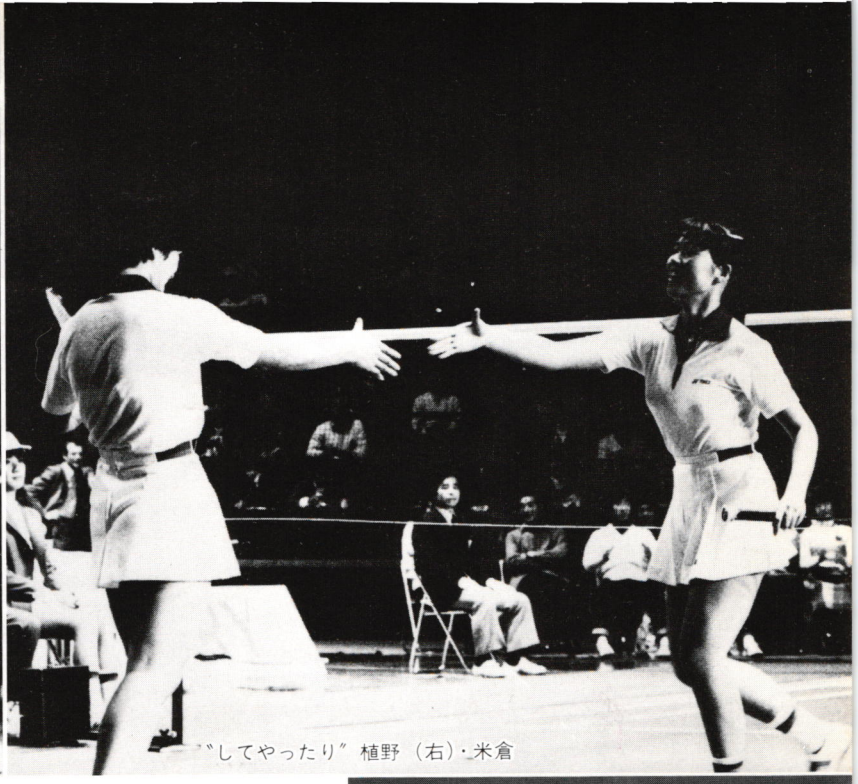


スイートスポットの広さがちがう

ALL GRAPHITE SH



実力を発揮できなかったギルクス（左）・湯木



〝してやったり〟植野（右）・米倉

〝女の闘い〟



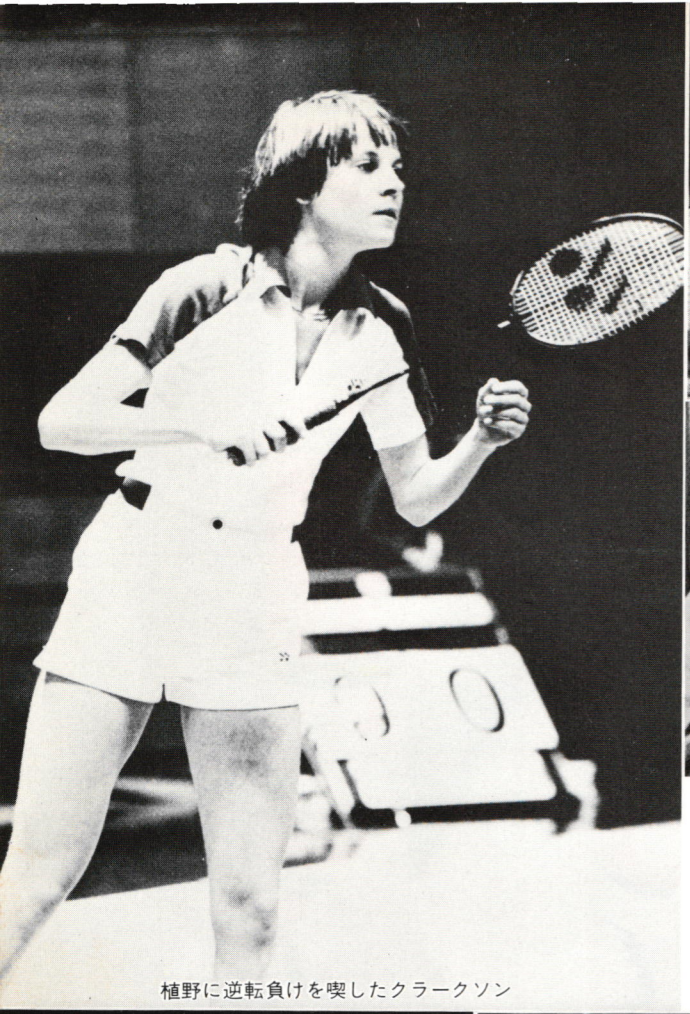
集中力を欠いたベリー（右）・スコブガード



ネット前の巧者、ベリー



日本にはおなじみのコーベン（手前）・ビューセコム



植野に逆転負けを喫したクラークソン



「誰も見てないかな」（左から）徳田、近藤、米倉

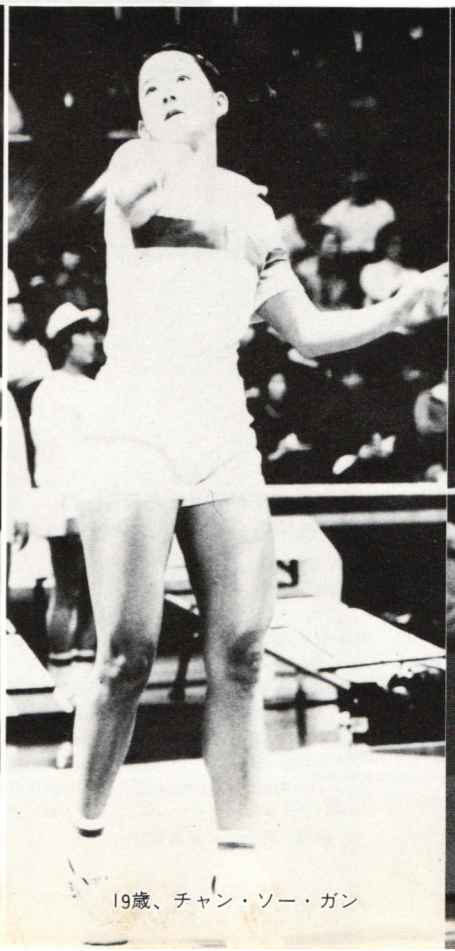


「きれいに撮っネ」（左から）栂野尾、谷、千葉

華麗な



18歳、イバナ・リー・イン・ホー



19歳、チャン・ソー・ガン



インドネシアのエース、ペラワティ



世界のシャトル、RSL

全英大会公認球として有名なRSLのシャトルコックをゴーセンがお届けします。

No.255
RSLコンピート
（ナイロン）
10個　￥2,600
@……￥260

No.256
RSLビクター
（ナイロン）
10個　￥2,450
@……￥245
検定合格球

No.257
RSLグラージュ
（ナイロン）
10個　￥2,000
@……￥200
試合球

世界のコートを翔んだRSLの高い技術を日本のプレーヤーに！

全英大会をはじめ、世界のビッグトーナメントの公認球としてあまりに有名なRSLのシャトルコック。このRSLが開発したナイロン・シャトルシリーズ（ビクター・グラージュ・コンピート）を、ゴーセンが一斉に発売開始。このRSLシリーズ、性能は水鳥に匹敵するばかりか、耐久力と打球感ではそれをはるかにしのぎ、どんな壁色・採光のコートでも打球の見きわめはパーフェクト。世界のコートを翔びまわったRSLならではのシャトル作りの技術が、日本のプレーヤーをうならせるでしょう。練習・試合にぜひお試しください。

RSLシャトル・モニター募集

■募集人員　20名（多数の場合は抽選）
■申込期限　4月10日（消印有効）
■申込方法
ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名（会社名）⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
■申込先
〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
モニターRSL2係　☎06(942)-5816(代)
■発表　本誌5月号に掲載

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200(代)



反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ / ハイ・シープシリーズ

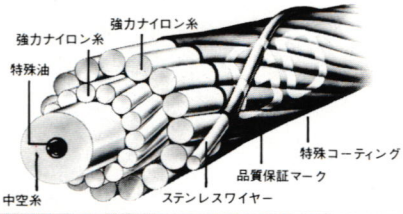
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得！

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気（乾燥、湿気など）から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex® WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800(10m・ゲージ0.85㎜)
●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。



Wintex WIRE モニター募集

- **募集人員**　20名（多数の場合は抽選）
- **申込期限**　4月10日（消印有効）
- **申込方法**　ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名（会社名）⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
- **申込先**
  〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
  モニターBG3係 ☎06(942)-5816㈹
- **発　表**　本誌5月号に掲載

※類似品にはくれぐれもご注意ください。

GOSEN
本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)


ただいま到着、池袋。どっさり、でっかく東口。
池袋店オープン!
洋菓子のタカセビル6・7階
毎月曜日定休
富士銀行
新日本証券
野村証券
三菱デパート
和三銀行
東口
池袋パルコ
西武デパート
池袋駅
豊島区東池袋1-1-4　タカセビル6・7階
TEL.03(989)0401
営業時間（平日）午前10時～午後7時30分
（休日）午前10時～午後7時
日本最大の
テニス・バド専門店
信頼のマーク
WINDSOR
ウインザー ラケットショップ。
●新宿店☎03(363)6848●横浜店☎045(453)1785●渋谷店☎03(464)9251

"STARTING BADMINTON"

これから始める人へ

スターティング・バドミントン

Starting Badminton
by Judy Hashman and C.M.Jones
Japanese language serial rights arranged
with Ward Lock Ltd., London
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

ジュディ・ハッシュマン、C・M・ジョーンズ共著
後藤忠弘訳、栂野尾昌一・悦子協力

8 集中力

試合中、不安になったり、集中力が乱れたりした時、最もいい対症療法は、実際に行動することです。バドミントンの場合はシャトルに意識を集中することです。言葉を変えれば、一つ一つのシャトルを〝生かして〟大事に使うことです。これには密度の濃い、機に応じての正しい判断ができる能力が要求されます。

さあ、この一球は速球か、緩球か、深いか、浅いか、ストレートか広角のクロスか、これをとらえて攻撃できるだろうか、つないで守る方がよいか——。

そればかりではありません。相手のコート上の位置どり、強さ、弱点、好み、得意なショットなども、即座に頭脳というコンピュータにたたき込んで、瞬時に、いま自分がどうすべきか答を出さなければなりません。

ですから、一球一球のシャトルを〝生かして使う〟ということは、現に進行中のラリーに意識を集中することにほかなりません。ラリーが一区切りつくまでは、あれこれ気を散らしているヒマなど、あるわけがありません。

一球一球のシャトルを生かして、自分の有利になるように取り組み、それを絶対にエラーしないという確固たる信念でバックアップする。こういう仕事に忙殺されていれば、この試合に勝つとか負けるとかが、頭に入り込む余地はありません。

一球一球のシャトルのやりとりは、あなたと相手との一対一の対決なのです。たとえ、苦しさに胸が張り裂けても、勝つのだという信念があれば、勝つのです。

このような状況下では、不安が幅をきかすことは不可能でしょう。気持ちのたかぶりや緊張は、かえって最後まで戦おうという心身のエネルギーの供給源なのです。

ラリーの終わり、ゲームの終わりに、どういう事態が起こるでしょうか。おそらく、観客の中に自分の知っている人がいたとか、この試合に勝てば、次の相手はどんな奴だったっかな？などということで、集中心が、ふっと、とぎれるのではないでしょうか。

「気持ちを集中させなければいけない」などと意識すれば、かえってヤブヘビです。へたな考え、休むに似たり、不意にショート・サービスなど見舞われても、あっと思うだけで、どうにもできないことになるのがオチです。

それではダメ。まず、行動しなさい。次の1点に考えを集中しなさい。いま終わったラリーの結果、どういう事態が起きたか、すぐ頭を働かせなさい。

長く、しんどいラリーのあげく、負けたのが、あなたの方だとしても、だから、相手がどんな心理状態になったか、ちょっと考えてみましょう。

もし、相手もこのように有益な本を読んで利口になったのでない限り、いまのラリーに勝ったことで、一瞬ではあっても、気がゆるんだのではないでしょうか。

かりに、そうだとすれば、あなたが次に繰り出した、鋭い、不意打ちのリターンが、相手をあわてさせ、ほんのちょっと対応が遅れたために、エラーし、エラーしないまでも、甘い球しか返せない、という事態が起こることは、容易に想像できます。

もう一つの方法は、チャンスを待って、徹底的に粘ることです。どんなにラリーが長びき、苦しくなっても降参してはいけません。相手が必殺のパンチだと信じて送り込んできた一打を持ちこたえ、拾って返す、そう

することによって事態は逆に相手を追い込む方向に働く、という信念でラリーを続けなさい。必ずチャンスは来ます。気力が充実していれば、どんな一瞬のチャンスをも見逃さず、モノにする行動力もあるはずです。

こういう精神力でプレーを続けていれば、気を散らしたり、あれこれ気にやんだりしているヒマはありません。充実した気力のぶつかり合いによって、ゲームがエキサイトし、また、見て楽しいものになるのです。同時に、ラリーの切れ目にも〝真空〟状態は生じません。

しかし、それにもかかわらず集中力の持続には、どんな人にも限界があります。また、たいていの人は〝結果〟を気にするために、そう長い間は冷静さを保っていられません。けれども、一球一打に気持を集中させるためには、先を気にすることは大敵です。

では、どうしたらいいか。一案としては〝待ち望む結果〟が早く出るようにすることです。これは〝分割〟と呼ばれるやり方で、たとえば二つのラリーを一単位として、このうち絶対に一つには勝つ決心をするのです。

これだと、自分の目標がすぐ目の前にあるのですから、途中でイヤになる、ということもないでしょう。もし、一つのラリーに勝てば、その時レシーブ側だったとしても、サーブ権をとれるのだし、その勢いで、自分のサービス・イニングにも勝って、得点できる可能性がきわめて高いのです。

集中力を助ける、もう一つのいい方法は、たとえばストロークの何か一つの局面に意識を集中させることです。バックスイングの方向が、相手から飛んで来るシャトルのコースに一致しているか、一打ごとに確かめるとか、フォロースルーが、飛び去るシャトルのコースを正しく追っているか注意する、といったようなことです。

相手があなたにエラーをさせようと、意識的に集中攻撃をかけてきたような場合、その術中に陥らぬようにするのに、この方法は役立ちます。

シャトルがネットを越えたらできるだけ早く打ち返す、というのは、バドミントンの鉄則です。そのためには、相手のラケットがシャトルをとらえた瞬間から、よく球を見なければなりません。そして、ペース、長さなどを判断して自分の動き方を決めなければなりません。

経験を重ねるにつれて、相手が実際にシャトルをとらえるよりも早く、相手の心理、行動が予測できるようになります。こうした〝読み〟はすぐれたプレーヤーになるためには、欠かせない要素であり、ここまで出来れば、まさに理想的です。

もし、今後、集中力が散漫になって困ることがあったら、以上、述べたことを、よく思い出して下さい。要点は三つです。

①始動を早くし、相手を読む努力をする。

②一球一打を生かして大事に使う。

③〝分割〟方式をやってみる。ただし、コート外のことに目移りしたりしないよう、気をつける。

カッコいいから、とカンちがいして、なにごとも、オーバーにやりすぎないよう、注意しましょう。

腹が立ったり、気がたかぶったりすれば、必ず、顔に現れます。最近、米国で行われた研究によると、心はまだ自覚していなくても、顔に感情の変化が現れていなければ、じきに、それが心に転移して、本当に自覚するようになる、という逆の話さ

会員ステッカー 79年版ができました
☆ 今年はライトグリーン ☆

おなじみになりましたバドミントン・ワールド・テッカーの79年版ができあがりました。

いよいよ3年目を迎えたステッカーですが、全国のバドミントン・ファンにすっかり定着した感じです。

各地でキャリング・バッグやラケットケースに貼られたステッカーをみるたびに、編集部一同ますます張り切っています。

今年の色は明るいグリーンです。銀パクの地、白いシャトルは例年どおりです。

価格は1枚100円は前回と同じですが、5枚まとまると300円に割り引きいたしますので、クラブの皆さんでまとめてお申し込みください。

送料は何枚でも50円だけ加えてください。お申込み方法は他の出版物同様、巻末とじこみの振替用紙をご利用ください。振込み手数料はかかりません。

バドミントン界編集部

え報告されています。

腹立ち、いらいら、不安感、などは、すべてプレーの足をひっぱる材料です。それゆえ、心の動揺を自覚したら、相手にそれをさとられないように努め、落着きを取り戻すために行動し、そして、実際にも落着くことが身のためでもあります。

もちろん、どんなことがあっても心の動揺しない人なんて、いるわけはありません。動揺したな、と思った時は、二、三度、深呼吸して、心を落着かせなさい。

これは自分の直接のプラスになるばかりではありません。もし、相手があなたの動揺しはじめたのを見て、一瞬、しめたと思ったとしたら、相手のその〝しめた〟に冷水をぶっかけることにも役立つからです。

人はあなたの姿を見て「実にクールで〝出来た〟選手だ」と思うことでしょう。そうした評判が高くなれば、あなた自身も「本当にそうかもしれないな」と思い込むようになり、そのために、実際にも、冷静な人間になっていくものなのです。

あなたの相手は、もしかしてこれ見よがしの挑発的な行動に出るかもしれません。しかし、決してそういうワナに、はまらないようにしましょう。相手がやるからと、自分もマネするのは愚かなことです。あなたには、あなたのやり方があるはずです。

試合を前にして、硬くなることがあるかもしれません。そしたら、むしろ喜ぶべきです。それは心理的にも肉体的にも、戦う準備が出来た、という証拠だからです。問題は、この緊張感をプレーの上にどう生かすか、です。予想される試合展開を、できるだけ詳細に、心に描き出してごらんなさい。そして、自分が勝ったことを想像してごらんなさい。

どうも、腹に力が入らない、足が重い、腕が硬くて思うように動かない、などという場合もあるでしょう。そんな時は、最初の1、2点は犠牲にしてもよいから、イチかバチかのつもりで、コート中を思い切って暴れまわってみたら、どうでしょうか。

そうでなければ、なにか一つのこと、たとえば、シャトルをオーバーすぎるほど、よく見つめるとか、最高度に手首を動かすことに注意をするとか、に注意を集中してみます。要するに、そうすることによって、余分の不安感や緊張を忘れさせ、消し去るのです。経験を積めば、これが最善の方法であると、わかるようになるはずです。

どういう方法、手段が自分に合うかわかったら、ふだんの状態の時でも、その硬さをときほぐすための練習を、定期的にやりなさい。そうすれば、一糸乱れず、即座に指揮官の号令に従う兵隊さんのように、いざという時に、自動的に反応できるようになります。

しかし、なんといっても先決なのは、未知に挑戦するこの喜び、ゲーム自体を楽しむことです。

いつの日か、全英選手権の決勝に進み、一国を代表してトマス杯やユーバー杯の大舞台を踏むようになった場合でも、プレーを楽しむ、という気持ちを忘れてはなりません。楽しむ気持ちこそが、プレーを進歩させ、大試合での勝利を生み出す原動力なのです。

ガッツ!! バドミントン

日本バドミントン協会

限りなき挑戦

小島一平著

◆読者の声……バドミントンのきびしさと楽しさを知った／これまでのものにはない素晴しい本だ／バドミントンをやる私達にとって、小島さんの歩いてきた道はとても勉強になった／写真が多くてよかった／小島一平さんのバドミントンにかけた人生のすばらしさに感動した／小島さんの気迫がヒシヒシと感じられ、バドミントンにかける熱意が私自身のプレーにも少なからず影響をもたらすと思う／とても内容が濃いのでバドミントンファンにとって貴重な本。よい勉強になった／これからも小島一平さんに頑張ってもらい、また僕も負けずに頑張りたい。

〈愛読者カードから抜粋〉

日本図書館協会選定図書

定価2000円（送料240円）

◆お申込みは、巻末とじ込みの振替用紙でお願いいたします。

エッコのバドミントンライフ

⑰ 栂野尾悦子

私の観念を変えた 中国チームの迫力

一九七二年、この年には、東京でユーバー杯が開かれ、日本は二度目のタイトル防衛を果たしたのです。

社会人になり、一番大きな悩みは、練習場所と時間が十分ではないということでした。当時は、練習ができると聞けば、公開日や夜間開放を狙って、まるでジプシーのようにあちこちへ出かけていったものです。

しかし、一般の人達と一緒のため、一面を続けて使うことができず、二、三時間のうち一時間使えればいい方でした。どの体育館へ行っても顔を合わせるバドキチの人達がいてよく練習相手をしてもらい、また、練習後、食事をしながらいつまでもバドミントンの話がつきないほどの常連になってしまいました。

その仲間が、今でもずっと続いている、文京の松井さんや菊地さん、そして東大の職員の方達なのです。この人達のおかげで、文京二中や根津小、文京体育館へ行っても、コンスタントに、短時間を有効に練習できたのです。

しかし、それだけの練習では全然足りず、その分をトレーニングでカバーしている状態でした。一九七三年、全日本実業団をめざして本当によく練習し、トレーニングをしました。出社前にトレーニングをし、昼食時間にも、アンガやクマ達と、不忍の池や近くの公園へ行き、毎日メニューを代えてランニングやサーキットトレーニングをしたものです。

そして夜は練習に出かけるというふうに朝、昼、晩と汗を流し、一人一人が優勝を目標に燃えていた思い出が、今もなお楽しくよみがえってきます。七月の暑い大会中、食欲も衰えず、最後までバテずに優勝カップを手にした時は、夏に弱い私には驚異であり、また、毎日のトレーニングと練習の成果であったことの喜びを皆で分かち合ったものです。

そして、もう一つ、この年に忘れられない大きなでき事がありました。日中友交条約をきっかけに、日中大会が日本で初めて開かれたのです。

選手はもちろんのこと、協会役員や観客も、これまでのバドミントンの観念を大きくゆるがしたのです。

実際に対戦した私達選手は、ヨーロッパや東南アジアのプレーとは全く異なる感覚や手ごたえを、びしびしと感じ取ったのです。

とにかく力強いのです。

全身がバネのように鍛えられており、ジャンプしてシャトルに飛びつき、「ホッ」というかけ声とともに打たれるスマッシュの威力はまるで大砲のようです。

日本人とは、体型的にはほとんどかわらないのに、筋肉のつき方がまるで違うのです。ひと目でわかるのは上半身で、肩や胸の厚さが全然違うのです。そして脚力の圧到的な強さ。

高い位置にあるシャトルにネコのように飛びつき、爆発的なスマッシュを打ったかと思うと、もうネット前で、それも、ネットの一番上で、スピンをかけたヘアピンを余裕たっぷりに操るのです。その迫力は、〝強い!!〟とうなるしかありません。

私は今までに何度か遠征して、日本の選手、特に男子において、上半身が貧弱であることに気づかずにいられませんでした。『攻撃は最大の防御なり』とよくいわれますが、レシーブのうまいヨーロッパや東南アジアの選手を負かすには、最後まで攻め続ける体力が必要となってきます。

男子の場合、せっかく内容のすばらしいゲームをしていても、最後には攻めきれなくて負けてしまうケースをしばしば目にし、今回の日中大会で、ますます上半身の強化を痛感せずにはいられませんでした。

また、もう一つ、ジャンプまでして打つのは着地するまでに時間がかかり、それだけホームポジションに戻るのが遅くなるという理由で日本では敬遠されていた観念さえ、大観衆の前であっさりと破ってしまったのです。

たしかに、高くジャンプする事は不利かもしれませんが、打った後、いち早く次の動きに移っている中国の選手達はちっとも苦にはしていないのです。それは、鍛えぬかれた体力と練習のたまもの以外ないのです。

各地で開かれた日中大会で、日本の多くのバド愛好者の方達にたくさんの課題と、刺激を投げかけてくれたことでしょう。



小倉での日中大会で

中国選手のバネには脅威を感じた

提言☆意見交換のページ

ダブルスにおける基礎練習法

群馬県桐生市・増田保夫

バドミントンを始めて一通りのフライトが打てるようになり、フットワークも覚えて、シングルスのゲームがこなせる段階で、さてダブルスとなると何から教えていくか、初心者の指導に当っている諸先輩もいろいろと自分なりに考えていることと思います。

バドミントン指導書を見ても、フォーメーションについては詳しく説明されていますが、その指導方法となると適切なものが見当りません。

この誌上を借りて、ダブルスにおける基礎練習法を皆様と共に考え、技術の向上に役立てば幸と思い、小生なりの練習法を紹介させていただきます。

(1) ショート・サービスとドライブ・サービスの練習

図1 ドライブの練習の②からまず始めてみましょう。ショート・サービスからドライブの打合い、ドライブ・サービスからドライブの打合いがあります。共にサイド・バイ・サイドのフォーメーションで打ち合います。

図1 ドライブの練習の①では、共にトップ・アンド・バックのフォーメーションで後衛同士の打合いを、前衛がカットする練習になります。

(2) ドリブン・クリアーを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習

図2の① ショート・サービスから、(共にトップ・アンド・バック)どちらかのサイドを狙って(ラッシュして)ヘアピンを返します。それをまたヘアピンでネットへ落し、ストレートに大きくハイクリアーで逃げます。そしてサイド・バイ・サイドにクリアーの打合いが続きます(ストレートに)、その際トップ・アンド・バックとサイド・バイ・サイドへの位置の移動が必要になってきます。パートナーとの関連したフットワークの練習にもなります。

図2の② クリアーの打合いに、クロスが入ります。シャトルを打つプレーヤーの変更とそれにともなうフォーメーションの変更、そしてフットワークの練習です。

図2の③ 最後のクリアーの打合いをフリーにしパートナーの移動にバラエティを持たせます。

その他にクロスのショート・サービスからネット・クロスに、クロスのハイ・クリアーからフリーの打合い等、プレーヤーの力量に応じた練習方法があると思います。

(3) ドロップ・ショットを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習

図3の① 最後の打合いがクリアーからドロップに変ります。そして繰り返すことによって、オフェンスからデフェンスへの変化が、それに伴なったフットワークとフォーメーションの習得に役立ちます。

図3の② ドロップをクロスに打ち合うことにより、オフェンスに変化が出ます。

図3の③ ドロップをストレートに、クロスにとフリーな打合いです。フットワークとパートナーとの関連に複雑さを加えます。

図3の②、③のデフェンス側のリターンをクロスに打つことにより、オフェンス側に大きな動きが出ることになりパートナーとの関連、フォーメーションの研究、フットワークの養成に役立ちます。

(4) スマッシュを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習

図3のドロップ・ショットをスマッシュに変えることにより、動きの中から打ち出

されるスマッシュ練習とシングルスと違ったスピードに対応するフットワーク、フォーメーションの変化の練習になります。図示しますと簡単にみえますが、現実にプレーを行いますと、初心者の場合ラリーが続かず面白味があまりありません。地味な練習こそフォーメーションの習得とそれに伴なったフットワーク、パートナーとの関連性に大きく役立ちます。

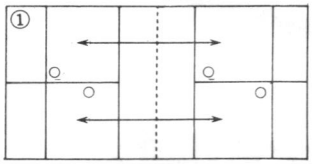
これらのダブルスの基礎練習が出来れば、実際のゲーム練習は割と簡単に行なうことでき、ダブルスが味わえると思います。

ダブルスのフォーメーションを中心にしたフットワークの練習

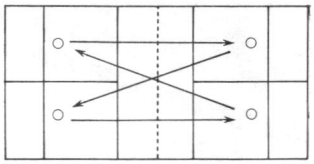
◎2人でクリアーの打合い（肩ならし）

◎4人でストロークによるフライトとダブルスのフットワークの練習

1．ドライブの練習



T&B　ドライブ サービス又はショート
ドライブの打合い
（ストレート）

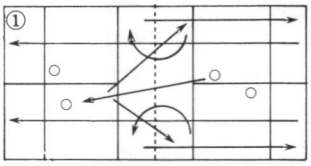


S&S ドライブ・サービス又はショート
ドライブの打合い
（ストレートとクロス）

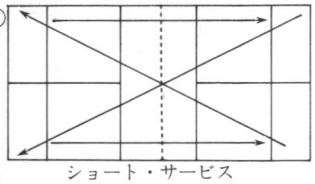
T.B—トップ・アンド・バック
S.S—サイド・バイ・サイド
I　—イン・サイド
O　—アウト・サイド

②.③のオフェンス側がストレートにデフェンス側がクロスに打ち合う練習もある

2．ドリブン・クリアーを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習



	I	O
ショート・サービス	T.B	T.B
ヘアピン	T.B	T.B
ハイ・クリアー(ストレート)	T.B	S.S
ドリブン・クリアーの打合い		



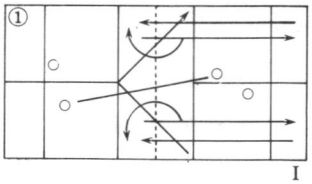
ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー（ストレート）
ドリブン・クリアーの打合い
クロスとストレートを使って

③

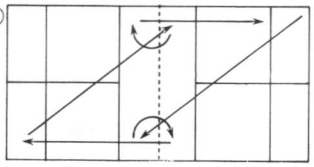
②図の応用

ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー(ストレート)
ドリブン・クリアーをフリーに打ち合う

3．ドロップ・ショットを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習



	I	O
ショート・サービス	T.B	T.B
ヘアピン	T.B	T.B
ハイ・クリアー(ストレート)	T.B	S.S
ドロップ・ショット	T.B	T.B
繰り返し		



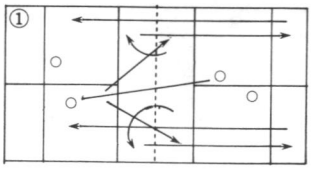
ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー
ドロップ・ショット
繰返し

③

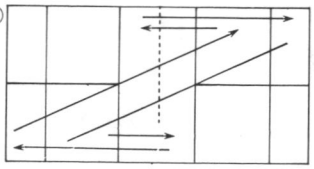
②図の応用

ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー
ドロップ・ショットをフリーに打ち合う

4．スマッシュを中心にしたショート、ヘアピン、ハイ・クリアーの練習



	I	O
ショート・サービス	T.B	T.B
ヘアピン	T.B	T.B
ハイ・クリアー	T.B	S.S
スマッシュ　繰返し	T.B	T.B



ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー
スマッシュ（クロス）
繰返し

③

②図の応用

ショート・サービス
ヘアピン
ハイ・クリアー
スマッシュをフリーに打ち合う



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

提言☆意見交換のページ

バドミントンの練習計画表について

愛知県豊橋市　川合征男

私は家庭婦人同好会を指導している者ですが、別表の「練習計画表」は、私が考え、実際それに基づいて指導しているものです。何かの参考になればと思い、送らせていただきました。

とかく漫然とした打合いで終ってしまう貴重な練習時間を、いかに有効に使い、基本技術を系統的に習得するか、そして楽しく長く参加できるか等を考慮して作成してみました。

〔使い方について〕

1週間（1～2回の練習日）を単位として教程を組み、月4回、そして3ヵ月（12教程）を1サイクルとして年4回繰り返す。

(1) マスターしなくても次の教程に進む。

シャトルを打つ前の基礎トレーニング（毎回30分）

(A) 準備運動

(B) ラケット振り

(C) フットワーク

(2) 基本フライト3種類（ドライブ、スマッシュ、ドロップショット）を1カ月の目標にして――月間として重点的に行う。ただし、最も基本であるクリアーは毎回入れる（最低15分）。

(3) 月の最終の週は、整理・実戦として試合を行い、同時に審判の練習もする。

〈編集部から：今月は34ページの増田さんと、このページの川合さんから、練習方法に関する投稿をいただきました。本誌ではこういった提言を広く紹介して、いろいろな意見の交換の場をもちたいと思います。ふるってご意見をお寄せください。お待ちしています〉

バドミントン練習計画表

主題	月	教程	練習内容	基本のフライト＆技術の要点
ドライブ月間	1月 4 7 10	1	◎ハイクリアー（1：1）…ストレート打ち（フォームと打点に注意して正しく打つ） ロングハイサービス　ドライブ	ハイクリアー ・より高く、より前にポイントをおきラケットの真中よりやや上方に当る。 ・腕を一杯に伸ばし、体全体で振り切る。 ※ドリブンクリアーへの発展
		2	○ハイクリアー（1：2）…クロス打ち（対角線に相手コート深くへ飛ばす） ◎ドライブ　ショートサービス ヘアピン	ドライブ ・体の前方でとらえ、シャトルを押し出すように床と平行に飛す。 ・ひざを屈伸させ、リズムを保っている
		3	ハイクリアー　◎オールロング（前後） ○ドライブ（4人によるクロス打ち） プッシュ　ショートサービス	ヘアピン ・腕を伸し、より高い位置で、ラケットを持ち上げるように振る。 ・手首に柔軟性をもたせ、ラケットと腕が一体感をなす。
		④	ゲーム（ダブルス） 審判 ■ダブルスゲームの基本 ドライブを主体とし、プッシュ、スマッシュで決める ※陣型（サイドバイサイド／トップ＆バック）	スマッシュ ・インパクトの瞬間十分にスナップを利して、ラケットを覆いかぶせるように強打する。 ・力に頼らず、タイミングを大切にする
スマッシュ月間	2月 5 8 11	5	◎ハイクリアー（1：1）…ストレート打ち（フォームと打点に注意して正しく打つ） ロングハイサービス　スマッシュ	ドロップ（カット） ・クリアーと同じ要領でシャトルを捕えインパクトの瞬間、肩腕の力を抜いてネットの上縁をねらい軽く打ち放つ。 ※カットへの発展
		6	ハイクリアー（1：2）…クロス打ち（対角線に相手コート深くへ飛ばす） ◎スマッシュ（連続打ち）　ヘアピン	
		7	ハイクリアー　○オールロング ◎スマッシュ（ヘアピンとの組合せ） ドリブンサービス　2：1 自由打ち	
		⑧	ゲーム（シングルス） 審判 ■シングルゲームの基本 ハイクリアーで後退させ、ドロップ、ヘアピンでつなぎ、スマッシュで決める。 ※対角線に散す。	
ドロップ（カット）月間	3月 6 9 12	9	○ハイクリアー（1：1）…ストレート打ち（フォームと打点に注意して正しく打つ） ◎ドロップ　ヘアピン ショートサービス	プッシュ ・ネット近くで、相手コートに突き刺すように打ち込む。 ・スイングを小さく、手首を鋭く
		10	ハイクリアー（1：2）…クロス打ち（対角線に相手コート深くへ飛ばす） ◎ドロップ（ヘアピンとの組合せ） ○オールショート　プッシュ	
		11	＝基本技術の整理＝ 1.組み合わせ練習 2.2：1の自由打ち 3.フット・ワーク クリアー／ドロップ スマッシュ／ヘアピン	
		⑫	ゲーム（シングルス・ダブルス）審判	

基礎トレーニング 打つ前に行うこと（30分）		
1 準備運動	2 ラケット振り（ストローク）	3 フットワーク
1 ランニング 2 全身の柔軟 3 筋力強化運動（手首、肩、腹背筋など）	◎オーバー・ザ・ヘッド ○サイド（アンダー）・ハンド　右～左 ○ラウンド・ザ・ヘッド ○ドライブ　※手首、肩の回転	1 サイドへの移動 2 バックへの後退 3 ネットへの突込み ※総合 ・ホームポジションにいったん戻り構える ・ラケットのスイングを正しくしながら

氷上の対決 全英前哨戦?

今年の全英選手権も目前に迫ったが、所も同じウェンブレーアリーナで、すでにバドミントンが開始されている。といっても、コートは板張りでなく、氷、そしてプレーヤーはスケート靴をはいての登場。この試合に日本の何人のプレーヤーが挑戦し勝てるであろうか!?

このお話、実は昨年12月末から開かれている「ホリデー・オン・アイス」での一コマ。カナダ生れで11回世界チャンピオンになったヒュー・フォージー、ミネアポリス生れで元プロバドミントンプレーヤーのシャーリー・マリー、そして同じく元プロで彼女の息子のレグの三人がくり広げるすばらしい演技は、バドミントンのもつ独特の面白さと、スケートのもつスピードとをうまく調和させたすばらしいアイデアであり、連日観客の拍手かっさいをあびている。

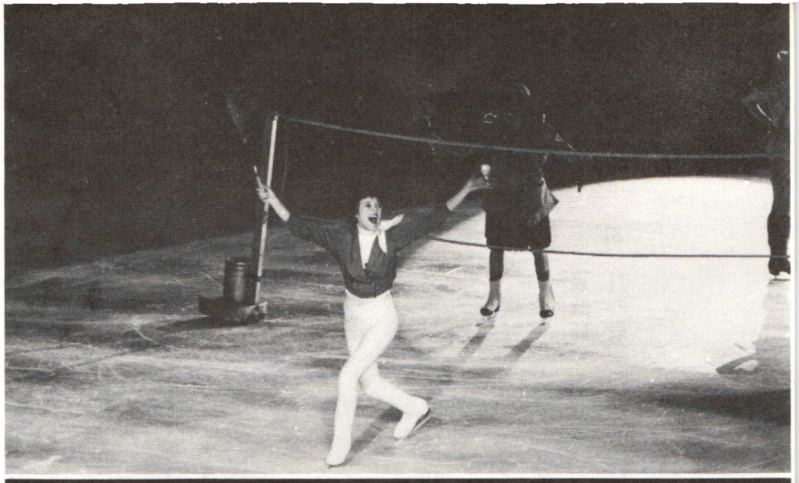
一例をあげると、シャーリーがネット前へショートサービス。それをレグがバックライン（ラインはないが……）に向けて高くはねあげる。シャーリーはシャトルの落下点へ走って（?）いき、アクロバット的なバックハンドで再びネット前へ返す。レグはそれをショートでネット前へ返す。シャーリーはバックラインからダッシュしてそのシャトルをレグ側のバックラインにはねあげ、今度はレグがそれを後ろ向きで両足の間からネット前へ返すといった具合。

初心者がよく苦しめられる基本練習の一パターンを想像してもらえればよい。ネット前から奥深くはねあげられたシャトルが落下するまでには、ご存知のとおり時間はかかるが、確実に落下点まで走っていかねばならず、基本練習の中でもかなりきつい部類に属するものである。これにアイススケートのもつスピード感のあるプレーを見せてくれる。

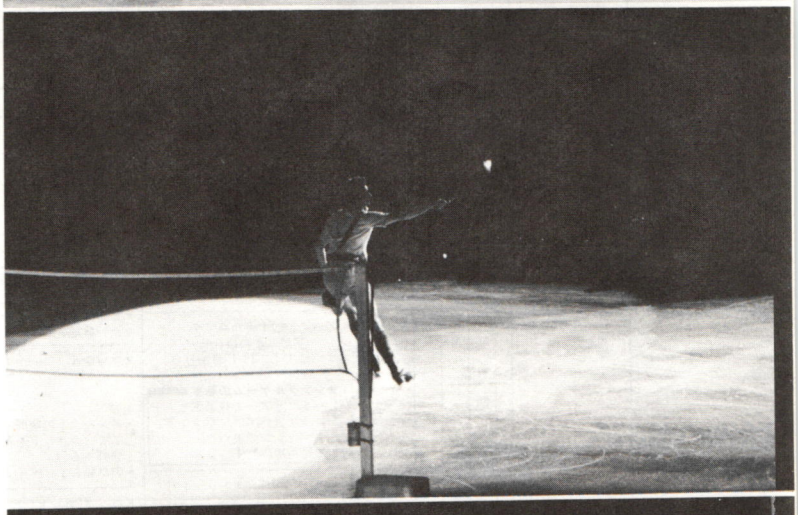
バドミントンと共にスケートの技術も十分必要であり、二点間を最短距離で走るためには、スケートがだ円を描いていてはダメ。ストップ・アンド・スタートの高度なテクニックが要求される。バドミントン・ギャゼット誌いわく、「一見に値する。」

北国のバドミントン愛好者諸君、一度このアイデアに挑戦してみたら!!

（在ロンドン・山本洋彦）









演劇随想・最終回

「新劇小史」

放送作家　寺田太郎

新劇というものが日本に生れたのは、明治の末期である。以前から日本には、能狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎などの固有の演劇が存在したが、新劇は、外国の演劇が我が国に輸入されたものである。（古来の芸能の形の中に取り入れられたものも別に存在したが……。）

明治二十六年坪内逍遙は『我が国の史劇』を書いて、演劇改良運動を興し、「桐一葉」「役の行者」ほかいくつかの史劇を書いた。

森鷗外は、明治二十二年にカルデロンの「ザラメヤ村長」を歌舞伎脚本風に翻訳した。

明治二十七年から、幸田露伴は「有福詩人」その他の戯曲を次々に発表した。

『文学界』によった若い文学者達は、演劇にも深い関心を持ち、北村透谷は、明治四十二年に、戯曲「蓬来曲」を発表した。……いずれも外国演劇の影響が大きい。

実際に新劇運動が行なわれたのは、明治三十三年、坪内逍遙によってである。その門下島村抱月が、ヨーロッパでの留学を終えて帰朝したのは明治三十八年秋で、抱月は逍遙を動かして「文芸協会」を発会させた。

逍遙は邸内に、演劇研究所を建設して、明治四十二年には、早くも二十二名の第一回研究生を採用した。その中には土井春曙、松井須磨子などがいた。

この研究所はやがて逍遙の手を離れ、抱月の指導に移り、明治四十四年、帝劇での第一回公演では「ベニスの商人」（法廷の場）を上演し、松井須磨子のノラで絶讃を博した。

抱月が帰朝するよりやや早く、小山内薫が歌舞伎俳優市川左団次一座により「自由劇場」を興した。そしてその年の秋第一回公演としてイプセンの「ジョン・ガブリエル・ボルクマン」を上演したが、その後、九回の舞台をもって明治四十一年に終った。

抱月は「文芸協会」を徐名され、松井須磨子を中心とする「芸術座」をつくり、翻訳劇を多く上演したが、かなり通俗的な観客動員を行っていた。

しかし、大正六年十一月五日未明、当時流行のスペイン風邪で抱月が急逝した。それから二月目の翌年一月五日、須磨子は抱月の後を追って縊死し、「芸術座」はこうして終った。

そののち何十かの新劇団が公演をもったが、その中から、演出家青山杉作、土方与志、その他、のちに築地小劇場で活躍した多くの俳優、戯曲作家が生まれた。

小山内薫は、初めての日本新劇人として、ヨーロッパに留学した。また同じく土方与志も留学したが、関東大震災の報らせに、急拠帰国しその足で小山内に逢って、新しい新劇運動を興そうとする意図を相談した。

同人制をとる新劇団「築地小劇場」が創立されたのは、翌大正十三年六月のことである。

「築地小劇場」は劇場と研究所へ俳優養生所」とを持っていて、月三回公演の充実した演劇活動を行った……、これをこそ、我が国の代表的な新劇と呼ぶべきであろう。

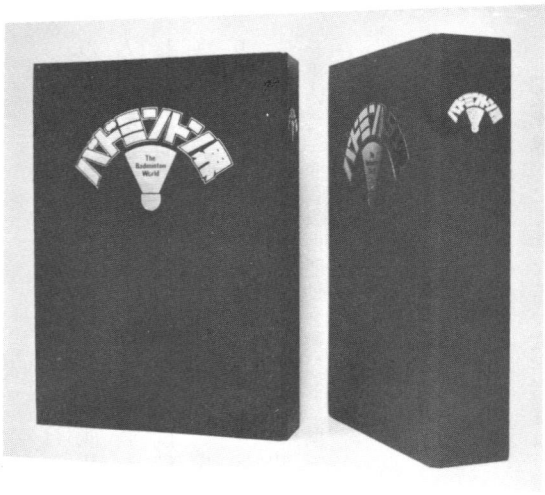
昭和四年十二月、小山内薫の死。それから半年を経ずして、「築地小劇場」は二つに分裂しその歴史を閉じた。

その演目は日本27、ロシア19、ドイツ17、イギリスおよびアイルランド13、アメリカ9、スウェーデン7、ノールウェイ6、フランス5、ベルギー3、イタリア3、その他8。総計一一七。

「築地小劇場」分裂の前後から、我が国にはプロレタリア演劇運動が興った。

戦後の三大新劇団を統計づければ、「新協劇団」はそのプロレタリア運動の現在形。そして「俳優座」「文学座」は、「築地小劇場」の発展形。

なお現在、ほかに多くの新劇団が公演を行っているが、それぞれの個性を尊重しながらこれらを観賞したいものである。〈終り〉



バドミントン界専用

合本バインダー

現在品切れ
4月初め出来
予約受付中

定価・500円

穴あけ不要・かんたんに・美しく保存

「バドミントン界」は読捨ての雑誌ではありません。毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科事典となるものです。

そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今回製作したものは、表紙の新しいデザインにあわせた写真のようなシャレたものです。

表紙は濃いブルーの特殊レザーを使用し、本誌と同じデザインを銀パクで押したものです。丈夫で長い間の保存に耐えることができます。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末に綴じ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

バドミントン界編集部

（送料1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上700円）

年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「**バドミントン界**」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。バドミントン界は一部定価300円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間3600円のところを3000円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、2800円となります。

お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月15日に発行と同時にお送りいたします。

購読期間は1年ごとの更新となりますので、6ヵ月や2年間といった変則的なお申し込みはご遠慮ねがいます。

また、ヨネックススポーツ、河崎ラケットの特約スポーツ店、ラケットショップ元町、ラケットショップフジ、ジャワ商会、サンスポーツ、アサヒスポーツ各店でも予約をお取り扱いしておりますので、各店にご照会ください。

読者と編集者

近藤小織選手に強い味方

近藤小織選手地元岡山市西大寺金田八軒屋の町内会が音頭を取り、1月4日午後1時から出身校岡山市開成小学校体育館で、帰省中の近藤選手を迎えて、「近藤小織選手を励ます会」が結成された。

地元の皆さんのお祝いや激励、都合で出席できなかった岡崎岡山市長からの励ましの電報が披露されて、近藤選手も顔を赤らめて感無量。

そのあと会員約二〇〇人が見守るなかで模範演技を行ったが、NHKのライトに照らし出され、一段とたくましくなった感じ。

きたる6月に岡山で行われる第29回全日本実業団選手権大会には、応援団をくりだす、と山田録二郎後援会長は力をこめて語っていた。

（幹事記）



近藤選手をかこんで

◆全国高校選抜中国地区予選会

男子は広島県が優勝

岡山県Aは女子で圧勝

昭和53年度全国高校選抜バドミントン競技中国地区予選会は1月5日、6日の両日岡山県山陽女子高校体育館で開かれた。

男子は広島県チームが苦戦しながらも5戦全勝で優勝、女子は山陽女高で固めた岡山県Aチームが圧倒的に強く、すべて3—0のストレート勝ちを収めて完勝した。

優勝チームのメンバーは次のとおり。

▽男子広島県
監督＝吉川知之、選手＝山根敏弘（府中高2年）田中克己（同）千葉直郎（同）持井啓吾（同）石谷研次（福山高2年）

▽女子岡山県A
監督＝毛利清志、選手＝松島万子（山陽女高2年）南葉理恵（同）天野真理（同1年）原田美和（同）轟恵美子（同）
（岡山県バドミントン協会記）

◆米子市市制50周年記念オープン

招待選手が実力をみせる

地元・出石、崎津らも健闘

米子市の市制50周年を記念して米子オープンが発足。

去る12月3日米子市民体育館で第一回大会が開かれた。競技の普及と技術の向上をねらいに、出場制限をはずした大会で、招待選手を含め、男女合わせて50人が参加、男女それぞれ単複の個人戦を行った。

男女とも全日本で実績を残す招待組が圧倒し、全タイトルを独占した。鳥取勢は男子で高真、出石。女子で崎津、小林らが奮闘したが及ばなかった。

▽男子シングルス準決勝
辻（ヨネックス）2—1出石（鳥取）西村（ヨネックス）2—0市村（サンバタ）

▽決勝

西　村	2	15—8 15—8	0	辻

▽女子シングルス準決勝
千葉（河崎）2—0崎津（鳥取）渡辺（河崎）2—0小林（鳥取）

▽決勝

千　葉	2	7—11 11—4 11—6	1	渡　辺

▽男子ダブルス準決勝
辻・西村（ヨネックス）2—0星野・松尾（島根）高真・出石（鳥取）2—0早川・柏木（鳥取）

▽決勝

辻 西　村	2	9—15 15—8 15—8	1	高　真 出　石

▽女子ダブルス準決勝
千葉・渡辺（河崎）2—0野々口・守本（鳥取）崎津・小林（鳥取）2—0昌子・藤原（島根）

▽決勝

千　葉 渡　辺	2	15—1 15—7	0	崎　津 小　林

（米子市バドミントン協会理事長　米田哲已記）

YOUNG JAPANESE TOUR CANADA 1978・12

若手チーム、カナダ遠征で好成績

長谷川、東海林銀メダル　男女ダブルスは優勝

第22回カナダオープンの結果については、先月号でお知らせしたが、カナダオープンに先立って行われた予選会および、カナダオープン後行われた各地での親善大会の結果を、まとめてお知らせします。

◆カナダオープン予選
（11・27～28）

▽男子シングルス

中井2（17—15、15—6）0デ・ベル
笠井2（15—6、5—15、15—6）1ジョンソン
日下2（15—4、15—4）0クラーク
中井2（15—5、15—3）0フリータ—ク
ウォウチャック2（15—7、18—17）0笠井
日下2（15—4、15—5）0デラトーレ

中井2（15—9、18—15）0トライオン
日下2（15—10、15—9、10—15）1ミュアー
日下2（15—10、15—5、12—15）1ウォウチャック

（この結果、中井、日下両選手は本大会に出場）

▽女子シングルス

東海林2（11—2、12—9）0センホブ
東海林2（11—3、11—1）0ブライアン

▽男子ダブルス

ファラデー2（11—3、11—5、9—12）1秋本
バックハウス2（12—10、11—3）0東海林

中井2、日下2（15—12、18—15）0スビーミュアー
中井2、マクダゴール2（15—12、18—15）0フリータ—ク、ウォウチャック

▽女子ダブルス

関根2、大塚2（15—6、15—1）0ウェルチ、デジルファラデー
関根2、大塚2（15—0、15—1）0ウェトナール

中井2、マクダゴール2（18—17、4—15、18—15）1日下、笠井
ロフェブリッジ2（15—5、15—8）0中井、マクダゴール

▽混合ダブルス

笠井2、谷2（15—5、15—5）0マッコイド、ビンスマクダゴール
日・下2、秋本2（15—12、15—3）0ッセンホブ、ワール

ブリッジパティック2（15—9、15—6）9笠井、谷
ロフェブリッジ2（15—9、15—3）0日下、秋本

◆カルガリー親善試合
（12月6日）

東海林0（0—11、4—12）2クラークソン
笠井2、関根2大塚2（15—9、17—15、15—8、15—8）0マクダゴール、クラークソン、クロフォード

梅野尾0、長谷川0（5—15、7—15）2ール、マクダゴールウェトナ
長谷川0（5—15、6—15）2ールウェトナ
大塚1（2—11、11—5、8—11）2ソンクラーク
梅野尾、中井2（15—11、9—15、18—16）1ールカーター、クラークウェトナ
谷、秋本2（15—8、15—0）0ソン、ワッセンホブカーター
日下、西尾2（15—11、15—7）0クラークソン

◆エドモントン親善試合
（12月7日）

◆ビクトリア・オープン
（12月8日～10日）

▽男子シングルス

笠井2（棄権）0ジャクソン
長谷川2（15—3、15—3）0チャディック
日下2（15—2、15—7）0ダハナニ
梅野尾2（17—15、15—8）0クリメット
笠井2（15—0、18—17）0ハンコック

長谷川2
15 15 12
0 ティラー
15 9

栂野尾2
15 15
4 4
0 ステンドール

中井2
15 15
5 7
0 キッド

長谷川2
15 15
8 12
0 日下

笠井2（棄権）
0 中井

長谷川2
15 15
12 12
0 長谷川

ウェトナール2
15 15
9 4
0 笠井

◇決勝

ウェトナール2
18 11 15
13 15 4
1 長谷川

▽女子シングルス

谷2
11 11
8 3
0 グス スキリン

東海林2
11 11
5 8
0 テン ウォース

秋本2
11 11
4 4
0 ウィー ウェント

関根2（棄権）
0 ホボーウエン

ヤングバーグ2
12 11
10 3
0 秋本

東海林2
12 12
11 11
0 大塚

バックハウス2
12 6 11
11 11 4
1 谷

関根2
11 6 11
5 11 3
1 西尾

ヤングバーグ2
11 11
5 4
0 関根

東海林2
11 4 12
1 11 11
1 バックハウス

◇決勝

ヤングバーグ2
11 11
3 0
0 東海林

▽男子ダブルス

栂野尾
長谷川2
15 15
5 3
0 ラスマッサン兄弟

日下
笠井2
15 15
0 2
0 ブラウン マイルズ

栂野尾
長谷川2
15 15
6 4
0 グリメ オハラ

日下
笠井2
15 15
10 5
0 ヒーサー ロロボフ

栂野尾
長谷川2
15 15
6 5
0 ピーター ポール センン

ロリック
ウェトナ2
15 15
12 14
0 笠井 日下

◇決勝

栂野尾
長谷川2
15 15
10 5
0 ウェトナール ロリック

▽女子ダブルス

西尾
東海林2
15 15
2 1
0 チェン ヘインズ

関根
大塚2
17 15 12
15 5 15
1 秋本 谷

◇決勝

関根
大塚2
15 15 7
8 8 15
1 東海林 西尾

▽混合ダブルス

中井
西尾2
17 15 11
14 11 0
0 ダーン ミルワン

日下
秋本2
15 15
2 11
0 スミス キッド

コンリー
ロリック2
18 15 3
14 10 15
1 西尾 中井

日下
秋本2
15 15
9 5
0 バーレー ポール

谷
秋本2
15 15
2 8
0 マクリッチ ドサーズ

西尾
東海林2
15 15
2 2
0 タクソン ロウズ

谷
秋本2
15 15
4 1
0 ロバートソン バーレー

関根
大塚2
15 15
6 3
0 イルソン ロリック

谷
秋本2
15 15 11
10 8 15
1 ックハウス ヤングバーグ、バ

◇決勝

日下
秋本2
15 9 17
11 15 15
1 ニールソン ロリック

ピーター
ソン、バッ
クハウス2
15 6 18
8 15 17
1 秋本 日下



◀カナダ・オープン会場にて

若人の熱気と闘志のぶつかり合い!!

このたび、本年度初のそして最も権威ある大学対抗春季リーグ戦を下記の要領で開催するはこびとなりました。

この大会は、関東学生バドミントン連盟所属の160余校の大学の伝統と名誉をかけ、技の競い合い、そして各大学独自の応援合戦にその魅力を集約できると思います。

とくに1部2部校は、学生の模範でもあり、またハイレベルの技術を有し、会場には異様なほどの熱気があふれています。

つきましては、学生のたゆまない努力の成果を実際に目の当りに見ていただき、プレーヤーひとりひとりに絶大なる皆様のご声援をお願いいたします。

記

主催＝関東学生バドミントン連盟　　日程＝4月25日(水)26日(木)28日(土)5月2日(水)3日(木・祭)　　**会場**＝板橋区立体育館（都営地下鉄6号線「志村坂上」下車・徒歩5分・上ばきを持参ください）　　**入場料**＝中学生：200円、高校生：300円、一般：400円、5日間共通券：600円　　**入場券発売所**＝関東学生バドミントン連盟（☎03－469－7565）

試合開始＝午前9時30分女子対抗戦から開始、終了は午後8時頃の予定

◆出場校

男子1部＝中央大学、日本体育大学、日本大学、早稲田大学、法政大学、青山学院大学

女子1部＝日本体育大学、日本女子体育大学、東京女子体育大学、青山学院大学、大妻女子大学、東京学芸大学

男子2部＝慶応義塾大学、関東学院大学、専修大学、明治大学、大東文化大学、明治学院大学

女子2部＝埼玉大学、日本女子大学、昭和女子大学、慶応義塾大学、早稲田大学、明治学院大学

なお、リーグ戦の結果による各1部最下位校対各2部優勝校の入替戦は、5月29日(火)30日(水)の両日、駒沢体育館にて行われます（入場は無料です）。

関東学生バドミントン連盟

編集室から

◆興奮と驚嘆のうちに〝ワールドカップ'79〟も終了いたしました。現在考えられるほとんどすべての国際プレーヤーを各国から招待し、前後1年に及ぶ奮闘をした舞台裏の方々の苦労は大変なものだったと思います。

◆今月号では、とりあえず記録と試合に関する報告にとどめ、来月号で〝ワールドカップ'79〟の総括をお届けしたいと思います。

◆観戦記については、2篇を収録いたしましたが、来月号でも何篇かご紹介する予定です。

◆伝統ある全英選手権大会にもいよいよ賞金がかけられるようになり、アマチュアとプロフェッショナルのオープン化も急速に進展しそうな状況です。

◆他競技との関連も考えながらアマとプロの問題についても紹介できるよう準備中です。

◆練習法・指導法などについての寄稿がふえています。読者の皆さんのご意見をぜひお寄せください。誌上で一緒に考えたいと思います。

バドミントン界　通巻第113号　　1979年3月号　　定価 300円

昭和54年3月15日発行

編集人／赤星　三樹

発行人／秦　　浩

©1979　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会

郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館

電話　03－467－3111(代表) 内線351

振替　東京5－9525(バドミントン界編集部)

TOKYO LETTER

by Mizuho Watagoya & Carolyn Matsuura

The Badminton World Cup '79 Tournament, the Nippon Badminton Association's newest venture, was held for the first time with about 50 players from 8 countries, including Indonesia and Europe, participating. After completing matches in Yokohama, Kobe, Aichi, Sapporo, Sendai, Nagasaki, and other cities in Japan, all the players assembled in Tokyo at the Second Yoyogi Gymnasium on January 19.

The first and second rounds of the men's and women's singles as well as the first round of the doubles were held on the first day.

In the men's singles, Liem Swie King (Indonesia), ranked No 1 in the world, and F. Delfs (Denmark), who is ranked third, both won as expected. All eight Japanese players, however, including K. Zeniya who was defeated by the fourth-seeded D. Talbot (England), were unfortunately eliminated in the first round.

On the second day of the tournament, the finals of the women's singles and men's doubles and the quarter finals of the men's singles and women's doubles were held.

In the women's singles, Japan's veteran, H. Yuki, defeated Indonesia's Ivanna L.I.H. by 2-0 while L. Koppen (Denmark) beat Indonesia's Verawaty by 2-1 and they both advanced to the finals.

European champion, L. Koppen, with her piercing shot, never let H. Yuki come near her and won a sweeping victory, displaying her strength as usual. G. Gilks (England), ranked No. 1 in the world, was in bad condition and in the quarter finals, lost to new and powerful 18 year old Ivanna L.I.H. in a close battle.

In the semi-finals of the men's doubles, Japan's Y. Iino and M. Tsuchida defeated Denmark's giants, F. Delfs and S. Skovgaard, to the delight of the fans. In the finals, however, they were absolutely no match for the team of Christian and Chandra (Indonesia), ranked No. 2 in the world, and the difference between the strengths of the two teams was clearly displayed.

At long last, the much anticipated final day of the tournament arrived. Long lines of badminton fans began to form early in the morning in front of the gymnasium, waiting for the doors to open. Most of the important badminton games are held at the Second Yoyogi Gymnasium, but it is rather unusual for the gymnasium to be filled to capacity as it was on this day and there were quite a few spectators who had to stand.

The semi-finals and finals of the men's singles and women's doubles were held on this day.

In the women's doubles, Japan's hope, the team of A. Tokuda and M. Takada, was defeated by Indonesia's Imelda and Verawaty, but in the finals, the team of E. Ueno and Y. Yonekura avenged this loss by turning in a brilliant and nearly flawless performans.

In the men's singles, because F. Delfs (Denmark) lost to Sumirat (Indonesia) in the semi-finals, the finals became a battle of one Indonesian pitched against another and the mounting excitement and interest was reduced somewhat. In spite of this, Liem Swie King, living up to his reputation, won a sweeping victory with his brilliant footwork and handling of the racket and delighted all the fans.

Since then, in Indonesia of course but in Japan as well, Liem Swie King's popularity is tremendous, and our office is being flooded with telephone calls requesting his address from fans who want to write to him.



いま、世界は95gに興奮する。

また、ヨネックスならではのクリエイティブなラケットが誕生しました。世界で最軽量。なんと、100g以下のフルカーボンシャフトラケット、カーボネックス8です。フレームは特殊合金アルミ、シャフトはフルカーボン。強烈なパワーを秘めながらこの軽さは、まさに世界新。バドミントンプレイが二歩も三歩も前進します。このヒーローの登場で。

新発売 ラケット重量極限の壁を遂に破った
FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト(特殊アルミ合金フレーム・フルカーボンシャフト)…¥8,800
(イエロー・オレンジ・グリーン)・重量表示・1-U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®